
SCOTTISH Country Dancer

RSCDS 会員向けマガジン日本語版

第 40 号

2025 年 4 月号

40

R S C D S

東京ランチ

東海ランチ

埼玉ランチ

分担訳



RSCDS 東京ランチ

2025 年 6 月

RSCDS の行事 (p.2)

サマースクール 2025

2025 年 7 月 13 日から 8 月 10 日、セント・アンドルーズ、ユニバーシティ・ホールにて

4 週間にわたり開催されるサマースクールは、歴史的な街、セント・アンドルーズで、ダンシングと音楽に満ちたアクション満載の RSCDS の行事である。世界中から集まったダンサーやミュージシャンと 1-2 週間のクラスやソーシャル・ダンシングに参加しよう。

1 週間をとおして、ダンサーはさまざまなティーチャーから指導を受け、生演奏を楽しみ、新しい場所で、サマースクールが提供する世界レベルの奮闘気を肌で感じることができる。ダンサーは毎朝、自分の実力に合ったスコティッシュ・カンントリー・ダンスのクラスと、午後に行われるさまざまなイベントに参加する。

ディレクター: ジャネット・ジョンストン (第 1-2 週) フィオナ・マッキー (第 3-4 週)

予約開始中

『サマースクールに初めて参加だったが、これ以上に素晴らしい、思い出に残る経験はないだろう!』

ファミリーズ・アンド・フレンズ・ウィーク 2025

2025 年 9 月 19 日-21 日、スコットランド、モファットにてすべての家族 (35 歳以下の若いダンサーとその両親/法的後見人) と 40 歳以下のダンサーのために企画されている。

RSCDS の新しい種類の行事で、楽しみと健康増進運動と友情の週末に参加しよう。

予約開始中

オータム・ギャザリング 2025

2025 年 11 月 7 日-9 日、スコットランド、グラスゴーにて年次総会と週末のダンシングと討論に参加しては?

オータム・ギャザリングは、世界中から集まるダンサーに、アクティビティあふれた秋の週末を過ごす機会を提供する。

ウィンタースクール 2026

2026 年 2 月 15 日-20 日 スコットランド、ピトロホリーにて

スコットランドの町、ピトロホリーで、5 日以上にわたり開催されるウィンタースクールに、英国、ヨーロッパ大陸、南北アメリカ、オーストラレーシア (オーストラリア大陸、南北ニュージーランド諸島およびその近海の諸島を示す地域区分) から約 150 人のダンサーが集まる。参加者は 4 つ星のアソール・パレス・ホテルに滞在し、さまざまなクラス、ソーシャル・ダンス、午後のイベント、そしてもちろん、有名なブレア城のボールを楽しむ。

ディレクター: イアン・ロバートソン

チケットの予約方法の詳細は events@rscds.org に連絡を

もくじ

RSCDS の行事	2
本部からのニュース	3
チェアと各委員長からの報告	5
セバスチャン・ワンレス—RSCDS 次期チェア	8
アン・マッカーサー—BEM	10
心から感謝の気持ち	12
ニール・ギャロウェイの紹介	13
私の第 2 の家族	15
世界各地からのニュース	15
書評	17
フランスでダイアグラムの勉強	18
私の意見	19
イアン・ミューアのマラソン演奏	19
サザン・フリリング／フリンジ 2024	20
編集長への手紙	21
追悼	23
スコティッシュ・カンントリー・ダンシングの楽しみ	25
ダンサーズ・ダイアリー	26

役員会は、ソサエティの健全な財務の継続的評価と全会員に提供する価値を維持する責任の一環として、会員の意見を取り入れる機会を持ちながら、今後数ヶ月間に戦略的計画を行う予定である。この努力の一つとして、みなさんはすぐに、紙版マガジンの送付方法の変化にお気づきのことだろう。マガジンの印刷と郵送をより安価で行う方法を調査した結果、域外交換局（ETOE）として運営されている企業と提携した。これらの事業者は、外国の郵便事業者とつながって運営されている。ETOEは国によってさまざまだが、一般的に国際郵便物の印刷、統合、文書化、輸送など、幅広い郵便業務を行っている。

国際郵便料金は、マガジン制作に関わる最も高いコストのひとつである。ETOE各社は、世界中の郵便サービスと法的な取り決めをしている。これにより、英国から、会員が住むすべての国へ、現地の郵便料金を利用して発送することができる。さらに、雑誌を梱包するのに堆肥化可能なポリ袋を使用している。紙封筒はリサイクルできるが、雑誌の発送には最も高くつく方法である。

私たちは、印刷冊子が多くの人に高く評価されていると知っている。雑誌がポストに届くのを見る楽しみや、座っておいしい紅茶を飲みながら、すべての記事を読んだり、読み返したり、写真の中に友人（あるいは自分自身）を見つけたりする楽しみを、皆さんよく口にする。マガジンの質の高さを維持することは不可欠であり、さらに微妙な変化としては、使用する紙の種類である。表面が光沢のあるグロス紙に比べて、シルク紙を使用することで、コスト削減を図ることができる。プロフェッショナルな仕上がりを保ちながら、グロス紙より反射が少なくまぶしさを抑えて読みやすくしている。

今号はスコティッシュ・カントリー・ダンシングに多大な

貢献をしてきた経験豊かなダンサー、ミュージシャン、ティーチャーにスポットを当てている。サマースクールの体験について書かれたベルターニー家の記事には、喜びと熱意が伝わってくる。また、ダンシングへの愛をはぐくみ、持続させるのに、家族奨学金のような機会が重要であると示している。

バンフシャーのアン・マッカーサーは大英帝国メダル（BEM）を、今年1月の新年栄誉一覧表で国王から授与された。BEMは、地域社会に重要な貢献をした個人に贈られる特別な賞である。アンは、自分が認められたことを間違いなく喜んでいるが、長年にわたり自分が好きだったことを、ダンスの生徒や友人たちと分かち合ってきただけだと感じている。彼女はそれを見事にやってのけた、と言えるかもしれない。

次期チェアのセバスチャン・ワンレスのインタビューは、彼の卓越した経歴の魅力的な片鱗を示している。彼の専門的な経験は、次の世紀へ向かうソサエティを導く、よい前兆である。

私たちはBook 54とニール・ギャロウェイ・バンドのCDの出版を楽しみにしている。会員サービスの新しい委員長、ジェレミー・ヒルの記事で、ニールの経験をさらに詳しく知って、楽しめるだろう。

編集長 マージョリー・マクラフリン、カリフォルニア、サンディエゴ

表紙写真 2025年ブレア城でのウインタースクール・ボールのミュージシャン。アコーディオン（ユーアン・ギャロウェイとジム・リンジ）、フィドル/バイオリン（イアン・ロバートソン）、ピアノ（ミュリエル・ジョンストン）、ドラマー（マルカム・ロス）、パイパー（アンガス・クラーク）

本部からのニュース (p.4)

2025年に周年記念を迎えるブランチ

アバディーン、ダンディ、パース&パースシャー、ウエスト・レンフルーシャー	100年
ロンドン（イングランド）	95年
ハミルトン&クライサイド、マンチェスター（イングランド）	90年
ボストン（アメリカ）、ケープタウン（南アフリカ）、カーライル&ボーダー（イングランド）、キャスル・ダグラス、フォレス、モン克蘭ズ、ニューカッスル・アポン・タイン&地区（イングランド）	75年
シェフィールド（イングランド）	70年
ボーンマス（イングランド）、サンフランシスコ（アメリカ）、セント・キャサリンズ（カナダ）	60年

北バージニア、サンディエゴ、ツインシティ、ワシントンD.C.（以上アメリカ）、ヨーク&北ハンバーサイド（イングランド）	50年
ニューメキシコ、フェニックス（以上アメリカ）	40年
ユース・ブランチ（インターナショナル）	10年

（無表示）はスコットランド

オータム・ギャザリング 2024 の選挙結果

役員会

- ・ガリー・クール（チェア）
- ・セバスチャン・ワンレス（次期チェア）
- ・クリストファー・スミス、チャーリー・カンディア（任期3年）

教育・訓練委員会

- ・グレアム・ドナルド（次期委員長）
- ・アビー・ブラウン、デビッド・クィーン、フィオナ・グラント（任期3年）

会員サービス委員会

- ・ジェレミー・ヒル（委員長）
- ・スーザン・マクファジェン、ベアトリクス・ウェブナー（任期3年）
- ニール・ブートランド、ポール・マクナイト（任期2年）
- キャサリン・ホスキン、デボラ・クロスリー（任期1年）

青少年サービス委員会

- ・リンダ・ウィリアムソン（委員長）
- ・エマ・ゼルケ、ウィリアム・トムソン（任期3年―選挙不要）

2025 年の年次総会で補充予定の役員会、委員会およびワーキング・グループの欠員は次のとおり：

- ・役員会：役員 2名(3年任期)
- ・会員サービス委員会 2名(1年任期)
- ・教育・訓練委員会 2名(3年任期)
- ・青少年サービス委員会 2名(3年任期)

委員会への推薦は 2025 年 9 月 13 日土曜日締切り。
年次総会へのブランチからの動議は 2025 年 8 月 16 日土曜日締切り。
詳細は各ブランチに問合せを、またはボランティア・ページにログインを。
あなたのスキルと才能を、どこにいても必要としている。

功労賞 2024 年

写真上段：ブライアン・チャールトン（右側）に RSCDS への 37 年間の貢献に対して、功労賞が贈られた。
下段：功労賞授賞者と RSCDS 事務局：ミュージシャンのフランク・トムソン（左）、アメリカで SCD を精力的に推進してきたアイリーン・イエーツ（右から 2 番目）

2025-2026 の RSCDS 会費

2024 年次総会で下記の動議が可決されたことを報告する。
役員会は 2025 年 7 月 1 日から年間正規会費を 1 年につき 29 ポンドに値上げし、他の会員の会費もこの額に比例すると提案する。
会費は下表にあるとおり。各ブランチは RSCDS 本部登録費に各ブランチ会費を加算する。
『RSCDS 会員はスコティッシュ・カントリー・ダンスと音楽を世界規模で注目度を上げるために、私たちの活動を引き続き支える。このことはリソース（人材、情報、知識の供給源）の開発、イベントの提供、教育および指導者のトレーニング・プログラムの配信を確実にする。』

区分	年会費	本部直接
大人（25 歳以上）	£29	£44
家族会員（同居 2 人分）	£46	£70
ヤング（18-24 歳）	£23	£35
ユース（12-17 歳）	£15	£22
ジュニア（12 歳未満）	0	0
加盟グループ		£64
若年グループ（会員のうち 50% が 25 歳未満または全日制教育を受けている）		£32

メルボルンに新加盟グループ、スコティッシュ・カントリー・ダンス・ビクトリアができた。scdvictoria.com/

私たちはオーストラリアに新加盟グループができて国際社会が広がったことを報告できてうれしい。スコティッシュ・カントリー・ダンス（SCD）の楽しみをより幅広く人びとに伝えるという使命感を持ち、このグループは 2025 年度中にメルボルンにこの力強いダンス・スタイルを経験させ採用するチャンスを与えることを目指す。ダンスの準備はいいかい、メルボルン！

歴史あるコート・クレセント 12 番地は地下 1 階のスペースに新しいテナントを迎える。

コート・クレセント 12 番地（本部事務所）の有名なオフィスは伝統的に 2 階建てで、最近入居者が変わった。1 階は引きつづき 3 つのオフィスと会議室と郵便集配室が収容されていて、地階は在庫とアーカイブ（古文書）の保管のために使われていたが、今新しい目的を見つけた。
2025 年 1 月から地階はエジンバラ・ボディー・トニックの創設者でありジャイロトニック®の公認インストラクターのローナ・マククリーンに貸し出された。このことはダイナミックで活力に満ちたスペースで専門的な遺産を構築し、調整するための刺激的で新しいひと区切りになる。

「私はクラシック・バレエをしていたが、重症性筋無力症と呼ばれる稀な筋肉障害のために 21 歳でダンシングを止めざるを得なかった。ダンシングは自分の体調を管理するのに大変役に立ち、回復と長期的健康のためにジャイロトニック（元バレエダンサーのジュリウ・ホバス氏が考案した専用のマシンを使用して行うエクササイズ）を使って可動範囲を維持した。

ジャイロトニックはもともとダンサーたちにヨガと呼ばれている手法から発展した。それは姿勢、動性、関節潤滑を改良し、顧客がより背が高く、より軽く、動きがより流動的になったように感じさせる。それはマッサージとエクササイズの融合のようだ！機械装置は体を強化したり、伸ばしたりして動きを助け、水中の感覚を模倣するようにデザインされている。

私のティーチャーをやめたので私は2011年にエジンバラのスタジオを開設した。大きく発展するのに時間がかかったが、9歳から84歳におよぶ顧客がはるばるパースシャーからやってきて、今ではスタジオが多忙になった。

私はジャイロトニックを完全に整えるために、もう少し大きなスペースでセラピーを実行したいと思っていたのでコート・クレセント12番地は理想的な場所であり、望み通りの極上の部屋だった。それがロイヤル・スコティッシュ・カントリー・ダンシング・ソサエティだったこととダンスと関連した団体から借りられたことでさらに完璧になった。」

(写真：ジャイロトニック)

アーカイブ・ニュース

私たちは新しいアーカイブのスタッフとしてケイ・マンとアリーナ・シュマコヴァを迎える、彼女らはカタログの作成、保存データの自動検索、写真撮影でアラン・マクファーソンを支える。

ケイ・マンはスコットランドのグラスゴーで育ち、学校でスコティッシュ・カントリー・ダンシングを経験した。彼女は1986年にカナダに移住し、トロント地域やサウスカロライナやニューヨーク州北部地方に住んでいた。彼女は『カナダ・オンタリオ州キングストンのケイ・マンのために書かれた』ストラスペイの*The Flower of Glasgow* (Book 46)でよく知られている。彼女は現在スコットランドに戻り、アラン・マクファーソンと共にRSCDSアーカイブにとりかかっているのを楽しみにしている。

アリーナはスコットランドの印刷や手書きのダンスやダ

ンス・ミュージックの原典を収集し、18世紀や19世紀の日記、回顧録、私的な手紙を引っ張りだしてスコティッシュ・ダンスの状況を幅広く探求した。彼女はハイランズ&アイランズ大学(UHI、全スコットランド48カ所に学舎あり)で歴史を学び(MLitt in History: 歴史の文学修士号をもつ(パートタイム勤務))。アリーナは国際会議の公開講演で彼女の研究を発表した。

あなたの意見をどうぞ！質問やコメントがお待ちしておりますか？—ご連絡を！

ガリー・クール、チェア chair@rscds.org

セバスチャン・ワンレス、次期チェア ChairElect@rscds.org

リジー・コンダー、トレジャラ treasurer@rscds.org

会員サービス委員長 msc@rscds.org

教育訓練委員長 eandt@rscds.org

青少年サービス委員長 ysc@rscds.org

本部の役員会およびスタッフ info@rscds.org

郵便では：12 Coates Crescent, Edinburgh, EH3 7AF すべての通信は適切な担当者に転送される。

My RSCDS

スコティッシュ・カントリー・ダンサー誌を双方向のデジタル・マガジンで受け取りたいですか？

あなたのプロフィールを編集して設定を更新してください。あるいは、あなたのブランチのメンバーシップ・セクレタリに連絡してください。

チェアから ガリー・クール (p. 6)

RSCDSのチェアを引き受けることが出来て本当に光栄であり、これから先の道程にわくわくしている。スコティッシュ・カントリー・ダンシングは私の人生の大部分を占めていて、今日のソサエティを築き上げたたくさんの熱心なダンサー、ティーチャー、ミュージシャン、ボランティアそしてスタッフと共に働くことはとても恵まれていると思う。

初めに、ウィリアム・ウィリアムスンに大変感謝していると言いたい。彼はこの100周年の期間のチェアとしてまさに適任者だった。彼のリーダーシップ、熱意と献身的に取り込む姿勢は計り知れないもので、貴重で重要な時期に仕事についていたことを皆が感謝している。そしてまたその時期に彼をサポートしてくれた奥様、リンダにもこの機会に感謝したい。それからセバスチャン・ワンレスが次期チェアになるのもうれしいし、今後数年間彼と一緒に働くのを楽しみにしている。

チェアになってから、イベント、ブランチ訪問、オンラインで皆さんの多くと会えてうれしかった。RSCDS全体に見られる情熱と献身にいつも感動する。RSCDSファミリーの共同体という感覚は実に注目すべきことである。スコティッ

シュ・カントリー・ダンシングがあらゆる年齢や背景のひとにもたらす計り知れない喜びを私は絶えず思い出す。

私たちの役員会もみなさんに代わって一生懸命に働き、特に新たな5年の戦略的事業計画を作り、将来の明確な方向を確立する。財政の安定はもう一つの重要な焦点で、これから何年もソサエティが強く存続していくように対策を立てている。わが共同体もまた新たな取り組みを懸命に推進している。

私はブランチで行われる素晴らしい仕事にいつも驚嘆する。枠にとらわれずに考え、新しいことに挑戦することをみなさんすべてに奨励する。新しい取り組みを起用してコミュニティに参加して貰い、ダンサーを育てるように。そして覚えてほしいのは、一度だけ試すのではない！初めの一回が上手いかなくても、それを微調整してもう一度試してほしい。革新と創造性が私たちのダンシングを次世代まで新鮮で興味を覚え続けるための鍵となる。

会員を増やすことは私たちがソサエティとして直面するもっとも大事な挑戦の一つである。私たちは皆スコティッシュ・カントリー・ダンシングを愛していて、健康や協調性や

音楽性という言葉だけでなく、友情を築き真の一体感がもたらす恩恵を受ける。私たちがより多くの人びとをわがRSCDSファミリーに連れてくることができればソサエティはより強固なものになり、その結果この素晴らしい娯楽の推進と保存を維持できる。

それで、私は私たち全員にたった一人の新しいメンバーを連れてくるように努力目標を定める。もし私たちが各自一人

会員サービス委員会

11月に会員サービス委員長に就任し、役員会の一員となったことを非常に喜ばしく思う。ブランチ・レベルでは長年にわたり関りを持って来たとはいえ、この世界的な組織にさらに深く関ることができると感じたのはごく最近のことだ。多国籍企業で働く専門職として過ごして来たので、地域と世界とのバランスをとることが仕事の重要な部分であった。RSCDSのために、それをどのように生かせるかを楽しみにしている。

共に働くのは、熱心ではあるがほとんどが新規の委員会メンバーである。昨年は出向スタッフだったポール・マクナイト、デボラ・クロスリー、ベクシー・ウェブナーが現在は専任で、さらにスーザン・マクファジェン、キャシー・ホスキソン、ニール・ブートランドが加わった。音楽監督としては、ルーク・ブレイディが引き続き重要な役割を担っている。またイアン・ミュアが次期音楽監督に就任したことは喜ばしい。ルークとイアンは、数々のソサエティの音楽活動をいかにサポートするのが最善かという重要な見直しに着手した。

地域的に隔たったニュージーランドやオーストリアなどをも含めた幅広い代表が委員会にいることは素晴らしいことだ。世界に広がる私たちのコミュニティは、隔てた地域からの意見も代表していることを確認したいからである。11月に開催され、40以上のグループが参加し大成功を収めた「ダンス・アラウンド・ザ・ワールド」のイベントで、このコミュニティは反響を得た。世界各地を多角的に結んで編集された *The Laird of Milton's Daughter* を [YouTube](#) で見てほし

教育訓練委員会

新年度の始まりにあたり、今後数年間にわたる計画や事業を推進させるために、熱心な5人の新しい委員会メンバーを迎えて大きな興奮をおぼえている。主な焦点は、あらゆる種類とレベルのクラスを指導するティーチャーやインストラクターを引き続き育成することにある。現在あるクラスやグループを指導したり、新しいクラスを始めるために必要なトレーニングや手助けを提供することである。

スコティッシュ・カントリー・ダンシングに来る人たちには、さまざまな異なった理由があることは承知している。ティーチャーは、自分のクラスをダンサーが次週もまた来たい、友達も連れて来たいと望むような体験の場にする必要がある。すでに踊っている人たちは、それがいかに素晴らしい趣味であるかを知っている。しかし、今後も繁栄し続けるた

の友人、家族の一員、あるいは同僚をRSCDSに加入することができるとしたら私たちが与える影響を想像してほしい！ダンス初心者でも、休止後に復帰した人でも両手を広げて歓迎しよう、私たちが活動している喜びを示そう。

私は楽観的だがスコティッシュ・カントリー・ダンシングは未来の世代のために繁栄し続けると確信する。

ジェレミー・ヒル (p. 6)

い。

出版とそれにかかわる活動は、引きつづき私たちの活動の中心にある。今夏のBook 54 およびそれに伴うニール・ギャロウェイ・バンドによるレコーディングの発行を非常に楽しみにしている(本版p.13のインタビュー参照)。私たちは、これらの出版物(ブックと録音)のデジタル版を同時に提供できるように作業している。今後数ヶ月のうちにさらなる詳細情報に気をくばっていてほしい。

また、出版物の長期計画も検討している。ソサエティの方針のもと、会員にとって価値のある資料を適切な価格で提供し続けられるようにするためである。

同時に、会員全体の意見を考慮するため、私たちの考え方の幅を広げる必要がある。もし会員を増やそうとするなら、それは必要不可欠であると考え。人はなぜ入会するのかという基本的な質問に取り組む必要がある。私たちの目的や活動を支援するため？イベントや商品購入の割引を受けるためなのか？会員限定の資料を手に入れるためか？地元ブランチの活動に参加するためなのか？

これこそが、ソサエティ全体で連携することが非常に重要な点である。その目的に向かって、ともに働けることに胸を弾ませている。RSCDS本部のスタッフ、同僚委員長のデブ・リーズとリンダ・ウィリアムソン、運営陣、その他の役員、そして最終的には世界中の会員やサポーターたちと一緒に。ご意見・ご提案をぜひ取り入れたいので、msc@rscds.orgへご連絡を。

デブ・リーズ (p. 7)

めには、より多くの人たちが参加してくれる必要がある。そこで、来るべき年の事業のひとつは、新人ダンサーを指導しソーシャル・ダンスやイベントに自信を持って参加できるようにするための方策や戦略を検討することだ。例えば、RSCDSのサマースクールやウィンタースクールで導入されているダンス・グレーディング・システム(どのレベルのクラスに参加したらよいかを案内するガイダンス)は一例だ。指導をサポートするビデオ・リソースへのアクセスを可能にすることも、このプロジェクトの一部である。既存の教材を案内するとともに、新たな教材も作成する。年4回発行のティーチャー向けニュース・レターは、指導関連の情報や記事に関心のある人なら誰にでも、今後も送付を継続する。公認

ティーチャーでなくても受取りが可能である。バーチャル・ティーチャー会議は今年もまた2月末に開催される。例年通り、世界にひろがる組織全体で活発に学習と討論が行われることを期待している。

新ティーチャーのトレーニングは常に重要な課題である。私たちが提案するものが、意欲的なティーチャーおよび彼らがこれから指導するダンサーのニーズにしっかり合致するように、現行の研修プログラムの見直しに着手した。新しいチューター・トレーニング・コースが開発され、昨年は世界各地で3コースが開催された。新規に教育をうけたチューターは経験豊富なチューターに寄り添って指導を覚えたり、助言を受けたりしながら、その技術を高めていく。また、新たに5人の試験官を任命した。彼らは今後数年にわたる試用期間に入る。最近の10月・3月の試験では、ユニット1の受験者数が非常に好調だった。ユニット2、ユニット3、ユニッ

ト5のコースも地元で行う要請が多数あった。また、さらに3つのCTI（Core Training for Instructors—インストラクターのための必須研修）トレーナー・コースを開講し、そのうち数名はすでに新しいCTI研修生をサポートしている。このことは、ティーチャー養成の真の必要性が再び高まっていることを感じさせる。スコティッシュ・カントリー・ダンシングを新たな支持者に広めるためには、こうした新しいティーチャーたちがどうしても必要である。

いつものことではあるが、スコティッシュ・カントリー・ダンシングを学び、楽しむ人たちのために尽力してくれるすべての人たちに感謝をささげる。ティーチャーであれ、研修中のティーチャーであれ、ティーチャー協会や委員会に関与しているのであれば、クラスやダンス会に参加するだけであっても、そして他の参加者を歓迎しサポートするだけであれば、どの役割も重要である。

青少年サービス委員会

リンダ・ウィリアムソン (p. 7)

まず、この3年間、はかり知れない支援をしてくれたフィリップ・マッキーに、ふかく感謝の意を表したい。また、委員会活動に貢献してくれたエリザベス・ウィッターと、現在継続中のウェブページ『ヤング・ダンサー』を更新してくれているゾーイ・ヒルにも感謝する。

数年ぶりにすべての委員会ポストが埋まった。エマ・ゼルケとウィリアム・トムソンを青少年サービス委員会に迎えることをベス、ルーシー、ショーナ、サラ、そしてリンジー共々嬉しく思っている。すでに終えたいくつかの計画とこれから行われるもののあらましを以下に述べる。

当委員会では、昨年末スコットランド学校作業部会(SSWG)のローナ・バレンタイン会長と会う機会を得た。再びローナとかかわりを持つことを楽しみにしている。

委員会が2月にニューカッスル・フェスティバルに参加する機会を得たのは有難いことだった。委員会活動に関する情報を共有し、バーチャル・フェスティバルのテーマなど今後のイベントに関するアイデアを検討することができた。

奨学金委員会は引き続き会合を開き、2024年11月の週末に開催されたメルボルン・サザン・フリングで、3名に全額および半額の奨学金を授与することを決めた。2025年2月初めまでには、80名以上の若者がスプリング・フリング・ブライトンのイベント（ブライトン・ロックに違いない！）に応募し、7名の若者に全額奨学金が授与された。

サザン・スプリング・フリングは、2026年2月にキャンベラ首都エリアで開催されることが検討されている。スプリング・フリング2026は、4月10日から12日までリヨンで開催される。今後のサザン・スプリング・フリング主催に関心があれば、Eメールで ysc@rscds.org までご連絡を。さら

に詳しい情報が必要な場合は、青少年サービス委員会とこれまでのスプリング・フリング委員会事務局が共同で作成したガイドダンス文書が入手できる。

RSCDS 無料ジュニア会員制度の開始以来、会員数は2024年の57名から2025年初めには115名に増加した。ジュニア会員に登録するには、RSCDSの地元ブランチに連絡しジュニア会員申請書に記入して欲しい。ジュニア会員申請書記入を終えると、各ジュニア会員にはRSCDSジュニア・アクティビティ・ブックが渡される。近くにRSCDSブランチがない場合でも、info@rscds.org 経由でRSCDS本部に連絡すれば登録できる。

ジュニア・サマーキャンプ(JSC)とヤング・ダンサー・ウィーク2025(7月20日-27日)の計画は順調に進行中である。新規のあるいは復帰する若いダンサーを迎えることをとても楽しみにしている。

RSCDSのまったく新しいイベント『ファミリーと友達のためのウィークエンド』に参加する機会があるだろう。35歳未満のダンサーと親たち（または法定後見人）を伴った40歳未満のダンサーを対象としている。このイベントはダンフリーズシャーのモファットで2025年9月19日-21日に開催される。今週末に新しいヒル・ファミリー奨学金を提供できたことは喜びであった。ヒル家の厚意に心から感謝したい。さらに詳しいイベント情報が必要なら、ysc@rscds.org までご連絡を。

最後に、すべてのダンサーとミュージシャンにお願いしたい。バーチャル・フェスティバル2025をこれまでで最高のものにしよう。世界中からより多くの参加があれば素晴らしい！

セバスチャン・ワンレスーRSCDS 次期チェア (p. 8-9)

昨年11月、グラスゴー・ブランチの前チェアマンだったセバスチャン・ワンレスはソサエティの次期チェアになった。セバスチャンは臨床研究において大変優れた医学的なキャリアを積んでいる。次期チェアであるとともに、RSCDSの健康戦略ワーキング・グループのチェアも務めている。このジミー・ヒルとのインタビューの中で、セバスチャンはRSCDS 会員に自己紹介をし、RSCDS やそのチェアの役割に対して自分に何ができているかを明らかにしている。

まず初めに、出身地を教えてください。

私はエジンバラで生まれ育ちました。ロイヤル・ハイスクールに通い、薬学をエジンバラ大学の世界的にも有名な医学部で学び、ロンドン大学で博士号を取得しました。

あなたの経歴書を読むと、あなたはスコットランドのルネッサンス・マン—科学の世界や文学、言語に精通している人として描かれています。

少し大げさな言い方かもしれませんが、私はロシア語、フランス語、日本語、さらにイタリア語も少し話します。イタリア語はほかの言語ほど上手ではありませんが、シシリア人が話すのを聞いて覚えました。

フィンランド語もそこそこ話せます！ルーマニアに住んでいた時に言葉を覚えようとしたのですが、少し年を取りすぎていました。言語を習得するには若ければ若いほどいいと思います。

日本の会員たちはなぜあなたが日本語を話せるのかに興味があると思います。

私がアメリカの多国籍製薬会社で臨床研究を行っていた時、会社の研究責任者として日本に行くように言われました。行く前に、私が一緒に仕事をするのは主に日本語を話す人たちで、ほとんど英語が話せないだろうとわかっていたので、6か月間ベルリッツ方式で日本語を学びました。私の先生は女性で基本的にはそのまねをしたのです。日本の男性と女性の話し方は同じではないので、東京に到着後、私が女性に習ったせいで私の日本語がとてもおかしいと同僚たちは気がついたのです！それで私は男性のような話し方を学ばなければならませんでした。私の仕事上、話すことはとても重要だったので、今でも日本人のいい友人が大勢います。東京では、外国人が大勢いる場所ではなく、渋谷の近くにいたので、地域のたくさんの人たちと知り合いになりました。私たちは日本が大好きなので、もしスコットランドに住んでいなければ、日本を選んでいただかもしれません。

しかし、あなたはほかにも多くの国に住んでいましたね。

はい、ベルギーから始まり、アメリカで仕事につき、そのあと日本、さらに西ヨーロッパで循環器系の研究をしました。それから東ヨーロッパに移りその後アメリカに戻ってインター・コンチネンタル・リサーチの副社長を務めました。それから会社の慈善団体に移籍し、HIV（エイズウィルス）の

治療と地域貢献をするプログラムを立ち上げるため、ヨハネスブルグに行きました。それは私の経歴の大きな変化でした。5年後退職したのですが、説得されて引退するのをやめ、ルーマニアに本部があるベイラー医科大学の小児エイズ対策室で働くことになりました。アフリカの南部から西部、東部と広く回りました。ルーマニアに医院があったのですが、さらにアフリカに7つのHIVのための小児病院を作りました。その後、妻と私はグラスゴーに戻り、つごう31年間、世界のあらゆるところに住んでいたことになります。

それで戻ってきて、スコティッシュ・カントリー・ダンシングを始めた。

それまで、妻と私はアメリカと南アフリカで社交ダンスをしていましたが、妻はいつもスコティッシュ・カントリー・ダンシングにあこがれていて、やってみたいと思っていました。2人でグラスゴーのベアズデン地域にあるウェスタートンのビギナーズクラスに参加しました。続けていくうちに、いつのまにかグラスゴー・ブランチの委員をやっていて、その後ブランチのチェアマンになり、今ではRSCDSの次期チェアです。

グラスゴー・ブランチのチェアを務めていた時に、どんな問題がありましたか？

2021年のことだったので、誰もが2年間実際に踊っていませんでした。すべてのクラスは、ダンスのプログラムやクラス以外の活動についても、一から始めなければならませんでした。コロナ以降にメンバーの数が減ることは明らかだったのです。私は委員会に2つのことを要請しました。まず、一般の人々のスコティッシュ・カントリー・ダンシングに対する意見を集めるため、ソーシャル・メディアの調査を市場調査会社に依頼しました。その結果を受けて、2021年8月のクラスのスタートに向け、募集広報活動を企画しました。52名の新しい人たちが集まり、そのうち33名が会員になったり、ダンサーとして参加したりするようになり、パンデミックの間にやめてしまった人たちに代わるようになったのです。

もちろん、もう一つの大きな課題は健康と安全のための対策を実行することです。スコットランドの首席医務官だったハリー・バーンズ卿は、公衆衛生という観点からの助言してくれました。

なぜグラスゴー・ブランチは成功したと思いますか？

それほど昔のことではないのですが、ある時点を境に、私たちは今までのどちらかという堅苦しく伝統的なカントリー・ダンシングへの接し方から離れることにしたのです。気楽で明るい雰囲気を作ること、特にダンス会に気を遣いました。新しく来た人たちを励ますのに適した「楽しくて易しい」ダンス会の数々を用意し、無料の体験教室を始め、ダンス会やボールの前には準備のためのクラスを開いたので、すべてのダンス会がみんなを受け入れ、歓迎するイベントになりました。今までブランチがやってきたことを繰り返すよりも、進んで新しいことに挑戦したのです。

コロナの後、ブランチの会員数は変わらなかったのですが、クラスへの出席が減ったことを付け加えなければなりません。コロナ直後のクラスは赤字でした。翌年、ブランチはクラスのやり方を変え、活を取り戻し、参加者の多いダンス会だったことで盛り返し、さらに次の年には黒字に戻りました。

私たちのブランチには、外部との折衝係がいます。これはほかのブランチの間でもよくあることかどうかはわかりません。外部団体と協力する場合、積極的ににかかわるよりも受け身でいる方が簡単です。最近の発展的な新しい試みの一つに、グラスゴーの東部、住宅開発計画地域のバーナラークでのクラスがあります。このクラスは、ブランチとバーナラークの住民とグラスゴー・ライフとの協力の成果です。グラスゴー・ライフは地域の慈善団体で、市全域にわたる活動をしています。その目的は4つ：①文化やスポーツを発展させる ②地域社会が精神的、身体的によりよい生活を送れるよう助ける ③地域経済の活性化を支える；そして、④住民の目的達成のため収益を再投資することです。バーナラークのクラスはビギナーズのためで、嬉しいことにうまくいきました。これはカントリー・ダンシングがすべての人のものであるという証拠です。もし、他のブランチと共同でできるレッスンがあれば、どこかで新しいクラスを始めることになり、その地域の住民や社会団体と一緒に活動するべきです。ただ広告を出して、それがうまくいくことを願うだけではいけません。

グラスゴーは、若いティーチャーに資格を取ることを奨励しているのが有名です。

代々のチェアを務めたフィオナ・マクドナルド、ミュリエル・ボーン、マーガレット・サンダーズは重要な役割を果たしました。今ではおよそ10名の若いティーチャーがいます。その人たちはサマースクールに行くのではなく、ここで訓練を受けました。

なぜ RSCDS の次期チェアに立候補しようと思ったのですか？

妻と一緒にウェスタートンの初心者クラスに参加したときは、まさかこんなことになるとは思っていませんでした。

きっかけは、ブランチ・チェアマンだったときの経験です。1年目は新型コロナの影響からの立ち直りに集中しました。2年目はソーシャル・マーケティング・キャンペーンとアウトリーチ活動（社会に向けて積極的に行う活動）です。そして3年目はソサエティとブランチの創立100周年でした。グラスゴーでの100周年記念行事に関わるうちに、いつの間にか「組織運営ができる人」と認識されるようになったのでしょう。職業生活では、何百人もの部下を抱える非常に大きな組織に所属していたので、その経験をRSCDSにも活かせると思ったのです。私はティーチャーではありませんが、過去のチェアにもティーチャーではない人がいたし、組織運営には自信があります。例えば、ソサエティが1923年に設立された場所を記念するブルー・プラーク（歴史的建造物等の記念銘板）は、私がグラスゴー市に提出した複雑な申請書の結果、設置が実現したのです。

カントリー・ダンシングを通じて印象に残っている出来事がありますか？

やはりグラスゴー市庁舎で開催されたブランチの100周年記念舞踏会です。会場は壮麗で、実に見事なダンス会でした。すばらしい行事でした。

以前は、次期チェアに明確な役割はありませんでした。次期チェアをどのように関与させるかは、そのときのチェアの意向次第でした。

確かに。私は今とても忙しくしています。ウィリアム・ウィリアムソン（前チェア）はガリー・クール（現チェア）を大いに関与させ、ガリーも私を多く関与させてくれています。私は新たな戦略計画の策定に深く関わっています。日本と南アフリカでの経験も大きな学びとなりました。日本では、すべての意思決定が合意形成によってなされており、これは委員会や理事会を運営するうえで非常に有益なアプローチです。アフリカでは、現場で実際に人々や脆弱なコミュニティとともに働く実践的な活動が中心でした。これらの経験が私に大きな影響を与えてくれたのです。

RSCDS の今後をどう見えていますか？

私たちは今、2世紀目に入っています。変化が必要であるという認識が生まれています。世界は変わっているのですが、ソサエティはある意味でそれに追いついていません。やや内向きで、一般の人々との距離が開いてしまっている感があります。グラスゴーでのソーシャル・マーケティング・キャンペーンは、そのことを私たちに気づかせ、ブランチの変革を促しました。ウィリアムは意識改革を進め、ガリーもそれを継続しています。今後は、ソサエティの枠を超えて、地域コミュニティ組織、他のダンス団体、慈善団体など、外部の機関とも連携を図っていく方針です。新たな戦略計画にもそれが盛り込まれており、会員により多くの価値を提供することを目指しています。アウトリーチこそが未来なのです。

アン・マッカーサーは、バンフシャー・ブランチの著名なティーチャーである。現在では伝統的なポート・フェスティバルで有名になった小さな町、ポートソイで人生のほとんどを過ごしてきた。かつては青少年サービス委員会の委員長として、数々の革新的なプロジェクトを手がけた。2025 年 1 月、国王から新年叙勲で大英帝国メダル (BEM) を授与された。これは、地域社会への顕著な貢献に対して贈られる特別な栄誉である。今回は、同じブランチに所属するソサエティ・チェア、ガリー・クールがインタビューした。

受賞の知らせを聞いたのは、どこでしたか？

そのときはウルグアイのモンテビデオのホテルにいました。ブエノスアイレスから丸一日かけて移動してきたところでした。メールをチェックしようと思って、同行者のジム・ストットに「変なメールが来てるのよ」と言ったのです。「ずっと連絡を取ろうとしていました」って書いてありました。これは何かの表彰だと気づいて、メールには「受け取る意思はありますか」と書かれていたので、「喜んでお受けします」と返信しました。でもちょっと面食らったわね。バッキンガム宮殿から家に手紙が届いていたはずだけど、私は旅行中だったから返事ができなかったのです。メダルは、私が住んでいるポートソイでの地域活動や、バンフシャー・ブランチでの活動が評価されたのだと思う。でも、まだ実感がない。ただ、自分の好きなことをしてただけなのです。私はスコティッシュ・カントリー・ダンシングも、町のために必要なことをやるのも、どちらも好きなのです。

今の気持ちは？

これを機に、これからも頑張り続けなきゃって思う。何年も前にブランチ賞をもらったとき、「もう引退してもいいのかしら」と思ったけど、続けてきてよかった。

メダルはいつ授与される予定ですか？

それが、まだよく分からないんです。BEM は、通常、郡のロード・リ्यूテナント (国王代理) から地元で授与されるのです。うちのダンサーたちが、ダンス・ホールの新しい屋根のための資金集めをしようって決めたのです。午後にはガーデン・パーティを開いて、皆でドレスアップして楽しみたいって。そして夜は、チャーチ・センターでケイリーを開いて思い切りはしゃぐつもりです。

スコティッシュ・カントリー・ダンシングを始めたのはいつですか？

3 歳のときにダンシングに行き始めました。ポートソイではクリスティン・ドナルドという先生がいて、いろんな種類のダンシングを教えてくださいました。少しだけバレエもあったし、カントリーやハイランド・ダンシングもありました。教員養成大学に通っていたとき、プレリミナリー・サーティフィケート (予備資格) を取りたかったけれど、受験人数が足りなかったのです。だから学校の教師として働き始めてから、夜間のダンス・クラスに参加しました。そのときのティーチャーが「セント・アンドルーズのサマースクールに行って、

予備試験を受けたら？」と勧めてくれました。ダンスはできたけど、フォーメーションは全部分かっていただけではありませんでした。でも学校の教師だし、人に教えることはできたし、ダンスもできたから、試験には合格しました。それが 1971 年のことでした。マルコム&ヘレン・ブラウン夫妻やフィオナ・ターンブルも同じクラスでした。その冬、初めてクラスで教え、翌年の夏にはフル・サーティフィケートを取得しました。それ以来ずっと教えてきました。アバディーンで勉強していた頃は、火曜のクラスと子どもたちのクラスを教えていて、リナ・バークレーの上級クラスにも通っていました。ポートソイに戻ってからは、自分のクラスを立ち上げました。1980 年代初頭には、ティーチャー資格取得クラスも開催しました。そのときのティーチャーたちは、その後 40 年間、ブランチで教えてきたのです。

写真キャプション: チェアに就任したガリーと、右端に立つアン

バルモラル城のバンフシャー・ブランチのダンサーたち
2009 年バルモラル城を訪問。中央にエリザベス女王。

カントリー・ダンシングのどんなところに魅力に感じられましたか？

私のソーシャルライフの中心です。楽しいし、健康的だし、たくさんの人に会えるのが魅力。ハントリー、キース、バンフ、ダフタウン、フォレス、アバディーンなど近隣をみんな回りました。50 マイルなんて金曜日の夜に踊るためなら、なんてことない距離です。ここではラリーと呼んでいます。

ご職業はなんですか？

ずっと小学校の先生になりたいと思っていました。最終的にはポートソイ小学校の副校長、そしてポータッシー小学校の校長となりました。その後、教育委員会に移り、教育委員となりました。そしてオープン・ユニバーシティで博士課程に進むことを決意しました。毎晩、ハイランドかスコティッシュ・カントリー・ダンスを教え、金曜日はラリーでした！

子どもたちに教えることはあなたにとってとても大事なことであったのですね。いつご自分のダンス・スクールを始められたのですか？

大学に在籍していた時です。収入がゼロだったので、母に自分のダンシング・スクールを始めると言いました。1976 年のことです。最初、11 人の子どもがいました。今でも続いて

います。健康な限り引退する気持ちはありません。今は、月、水、木、金と教えています。主にハイランド・ダンシングですが、フレイザーバラでは金曜日の午後にカントリー・ダンシングを教えています。ダンス・スクールの宣伝は全く必要ありません。ただ、なんとなく人が集まるんです。ある時、クラスに通って来るダンサーの1人になんで来るんですか？と尋ねたことがあるんですが、「ここらに住んでいるし、他にやることがないから」という返事でした。ダンシングはダンス以上のものです。子どもたちは私の家族のようなものだし、彼らは学校で何が起きているか教えてくれます。彼らの進路について話し合うこともあります。そして進学や就職に推薦状が必要な時、私を訪ねてきてくれます。最近では、ハイランド・ダンシングの教師資格を持っていると大学入学の好条件になります。

ジム・ストットとともに青少年サービス委員会に所属した時、スコットランドの学校に認定制度を取り入れることを提案しました。3つのレベルを設定し、それぞれに賞を決めたんです。全ての学校がこのシステムを導入してくれることを望んでいます。

子どもを教える時のとっておきのコツがあったら教えてください。

退職した時、私は地域の全ての校長を知っていました。それで地域の学校でカントリー・ダンシングを教えることができました。私が考えたのは、みんなをダンスフロアに集めることです。私は男の子同士や女の子同士が踊ることを気にしたことがないんです。とにかくみんなが踊って、6から8ダンス踊れたら満足です。優秀なダンスチームが一つあるよりも、誰もが踊っていることの方が大切です。子どもたちが夢中になって楽しんでくれるのが目標です。先生の中には、優秀な少数のダンサーを高いレベルに育てることを目標とする方もいるかもしれませんが、私の場合は大勢を踊らせて、楽しませます。マリー地区音楽祭の委員長になった時、多くの学校をダンス部門に参加させるためには、自分で学校に向くしかないと思いました。時には200人以上の子どもが参加しました。学校でカントリー・ダンシングの楽しい経験をすれば、将来、再びダンスを始めるかもしれません。

コロナのあとは学校に出入りすることが難しくなりましたか？

はい。私の場合はそうですね。コンタクトができなくなりました。校長たちが皆異動したのです。個人的なコンタクトはとても大事です。

最近では午後のクラスが増えているようですが。

そうですね。フレイザーバラのクラスは、冬の夜に長い距離を移動したくないから午後です。午後のクラスは60歳以上ですが、2セットは確実に集まります。私たちのランチでは9つの夜のクラスと2つの午後のクラスがあります。

海外の経験を教えてください。

初めて海外に行ったのは、青少年サービス委員会の委員長だった時です。スプリング・フリングの発展期です。初めて参加した時は、40名ほどの参加者でしたが、次第に若いティーチャーが集まってきました。スプリング・フリングが始まり、育ちました。リヨン、ロンドン、エジンバラのフリングはとても良かったですね。ボン、グラスゴー、パリのフリングは参加者が大勢いました。私が委員長であった期間にフリングは根付き、持続可能となりました。

アルゼンチンのBASCダンサーたちとの出会い、ダンシング、指導は、ここスコットランド北東部におけるカントリー・ダンスの経験と同様にとても刺激的なものでした。今までの自分の功績で一番誇りに思うのは、ジム・ストットがサマースクールの校長だった時に、マリリン・ワトソンと一緒にジュニア・サマースクールを開設したことです。ジュニア・スクールは現在定着しています。初めてのバーチャル・フェスティバルを行った時も私は委員長でした。

(写真) アルゼンチン、ティグレの水路で p.12

新しいことを始めようとするランチに対してどのようなアドバイスを送りますか？

突然思いつく、みたいなのが良いと思います。ここでは、子どもたちの集会、日々のダンス、デイスクールなど、とても豊かにダンスを踊っています。人数が減る年もありましたが、続けることによって、そして活動を宣伝することによって盛り返してきました。たくさん子どもたちがいたのですが、コロナがやって来ました。それでも新しいアイデアを試しています。

今までで一番のダンスの思い出は？

一番の思い出は2009年、ランチの80周年を祝うためにバルモラル城に招待を受け、エリザベス女王陛下の前で踊ったことです。ガリー・クール（現RSCDS チェア）と私が事前にバルモラル城に赴き、ボールルームの下見をして、統監に会って、私たちに何が期待されているか聞かなければならない、と伝えた夜、ランチの面々はすっかり仰天していました。バルモラル城までバスで57人のダンサーが向かいました。ジャック・デラニーとコリン・デュワーのバンド演奏で踊ったことは、忘れることのできない素晴らしい思い出です。女王陛下にお目にかかり、私たちのダンスにお言葉をいただいたのは、本当に特別なことでした。踊り終わった後、陛下は20分間、私たちダンサーとお話してくださいました。すっかりくつろがれている様子でした。それを超える思い出はありません。

最近の思い出では、昨年11月にアルゼンチンに行ったことです。それはダンス・シーズンの最後で、BASCダンサーは遠足を行いました。ブエノスアイレスの北にあるティグレまで車で行き、その後、カヌーで水路を進みました。そして巨大な小屋に見えるような建物に到着して、そこでワーク

ショップを行いました。ハッピーで陽気な雰囲気の中で過ごした日々は、人生の中で一番幸せな日々でした。RSCDSのおかげで多くの人々があらゆる場所から集まり、一緒に踊り、友達になることができます。

なぜ RSCDS は重要ですか？

1971 年からソサエティの会員です。54 年間です！それは私の命の源です。そこであらゆるテクニックと指導法を学びました。RSCDS はダンス、ダンステクニック、そしてフォーメーションをまとめ上げ、世界中に提供しました。カナダのスプリング・フリングに行ったり、日本のダンス・ウィークエンドに参加したり、アルゼンチンのクラスに参加したり、しかも皆同じように踊る。これは RSCDSのおかげです。

RSCDS の未来は？

バンフシャーでは、1970 年代、80 年代に若かったティーチャーは、現在 70 歳を超えています。ほとんどのダンサーも同様です。彼らの支援は大切ですが、若い人々を集めることもブランチャ RSCDS 全体にとって大きな課題であり、そのジレンマに直面しています。

好きなダンスのタイプは？

間違いなくストラスペイです。

お好きなダンスは？

The Duchess Tree, Miss Gibson's Strathspey, Autumn in Appin です。これらのダンスの時は、私から男性を誘います。これらは、ミス・ミリガンがおっしゃった「魂で踊る」ことを象徴するダンスです。

BEM は、カントリー・ダンシングの分野での活躍だけでなく、ポートソイのコミュニティでの活躍に対して授与されたものだと思いますが。

はい。地元でいろいろ活動しています。その中にはコミュニティのイベントでダンシングのデモを行うなど、ダンスと関連することもあります。また、6、7 月にはスコットランドの伝統的なボート祭りに関わっています。私はポートソイ・コミュニティ・エンタープライズのディレクターもしていて、そこでは小さな博物館の運営、伝統的なボートを作るボート小屋や、コミュニティスペースの管理を行っています。また、キャラバンサイトや四つ星ホテルも運営しています。さらにポートソイの 2 つのホールの運営の他、教会関係の活動もしています。

あなたに影響を与えたのはだれですか？

パット・レモンです。現在、80 代後半ですが、毎年セント・アンドルーズに 2 週間行っていました。彼女のテクニックは他に見られないもので、スコティッシュ・カントリー・ダンシングに対する情熱は、彼女から私に受け継がれたものです。コロナの時まで、パットは、バンフのクラスに来ていました。そして私に対する期待、また自分自身に対する期待を今まで通り持ち続けてくれています。

あなたにとってスコティッシュ・カントリー・ダンスとは何ですか？

私の人生そのものです。72 年踊っているんですよ。仕事が忙しい時はダンシングの量が減りました。また、仕事が落ち着いている時はダンシングの回数が増えました。ダンシングは常に私の他の生活と並んであります。今の望みは、可能な限り、遠い未来まで踊り続けることです。

心から感謝の気持ち

ドーン・ベルターニ、ロサンゼルス・ブランチャ

(p.13)

(写真) ヤンガーホールで友人たちと

私は、RSCDS コミュニティのすべての人々に、心からの感謝の気持ちを込めてこの記事を書いている。今年セント・アンドルーズで出会った人々、RSCDS そのもの、そしてこの素晴らしい冒険に私たちを送り出し、サポートしてくれた南カリフォルニアの SCD 仲間たち。私の家族は、セント・アンドルーズのサマースクール・ファミリーウィークで、最初のヘインズ・ファミリー奨学金という寛大な贈り物をいただき、家族全員、そして個人としても、大きく成長している。このような短期間でここまで来ることができたことは、大きな成果だと感じている。同時に、これはまた、新たな素晴らしい冒険の始まりでもある。

私は 2 年弱前に SCD を始めた。その楽しさを実感すると、8 歳と 11 歳の 2 人の子どもたちを私のクラスに連れて行くようになった(ロサンゼルス近郊には子ども向けのクラスはない)。そして 2023 年に、アジロマー・ウィークエ

ンド・カンファレンスに参加する機会を得た。美しい環境の中で、活気にあふれた熱狂的なダンサーたちとともに、ダンス、クラス、そしてボールを楽しみ、素晴らしい生演奏を堪能した。エネルギーと熱意は他者に乗り移るものである。自宅に戻ると、夫もクラスに通い始めた。昨年の冬休み直前に、友人からセント・アンドルーズのサマースクール、ファミリーウィークのヘインズ・ファミリー奨学金の申請書を手渡された。家族全員で参加することは実現不可能な夢のように思えたが、この冒険を本当に楽しんでいたので、応募してみたことにした。その経験が、これほど素晴らしいものになるとは、まったく予想もしていなかった。実際の体験は、当初の希望や夢よりさらに大きなものであった。

私たちが奨学金を獲得し、サマースクールに参加できると聞いた母は、すぐに申し込み、クラスの友人たちも招待した。4 人分の奨学金で、7 人が参加することとなった。

ファミリーウィークは私たちにとって完璧な 1 週間であ

った。午前中は楽しいクラスでいっぱいであった。ヤング・ホールでテンポよく進む、喜び、興奮、感動、そして挑戦に満ちた「チャレンジング・ハイ・インパクト」のクラスを私はとても気に入った。ニックはクラスで今までのダンスの倍の経験をしたかと思う。素晴らしい生演奏とも相まって、ダンスフロアで自信を持って活躍するために必要なすべての基礎を得ることができた。子どもたちは、グレース・ヒルとリンダ・ウィリアムソンが魔法のように指導するキャンプで、『ついに』同世代の子どもたちと踊ることができた。子どもたちはとても楽しい時を過ごし、自分がどれだけ学び、発達し、上達したかまだ気づいていないと思う。彼らの声は「来年も来てもいい？」から「来年来たらね...」に、あつという間に変わった。そして今、来年がとても待ち遠しいようだ。

きっちり決まった午前中のスケジュールとは対照的に、午後は、楽しい家族イベント（ビーチでのダンスなど）、追加のクラス（意欲的なダンサーのため）、夜のダンス・プログラムの前にリラックスして休憩する時間など、バランスのとれたさまざまな機会が用意されていた。このプログラムはまさに私たちが求めていたものであった。夕方のダンス会は、私たちの寮と同じ建物で開催されていたため、子どもたちの就寝時間が管理しやすかった。他の夜は、街の中の会場でダンス会が開催され、イベントに出かける興奮を味わえた。通常のプログラムがあまりにきっちりしていると感じたときも、カジュアルなケイリーを楽しめた。さらに多くの体験を希望する人々は、地元のランチが主催するサマースクール外のダンス会に参加し、より多くの人と踊ったり、多様なSCDダンサーの姿に触れたりすることができた。多くの活気ある選択肢があったため、自由に色々な経験をすることができた。ドレスコードも柔軟であり、誰もが歓迎され、容易に参加することができた。フォーマルな服装を選ぶ人もいれば、ショートパンツでリラックスする人もいた。時にはドレスアップして参加し、時にはただ楽しむために踊ることもあった。私が特に印象に残ったのは、参加したすべてのイベントで国際的かつ様々な世代のダンサーがフロアの中で混ざっていたことであった。

特に記憶に残る夜は金曜日のケイリーであった。多様なパフォーマンスの融合は素晴らしく、感動的な体験であった。笑い涙を誘う詩、歌、ダンスに満ちたイベントであった。多くのグループが週の成果を披露した。ジュニアサマーキャンプのグループは美しいパフォーマンスを披露した！子どもたちが他の子どもたちとこのように協力する経験は、私たちには普段ないものであり、彼らに対して誇りを感じている！もうひとつ印象に残っているパフォーマンス（たくさんあったが！）は、17歳から26歳までのメンバーによる、ダンス創作クラスで取り組んだダンスだった。私たちと1週間一緒に過ごした若いダンサーたちは、生き生きとした動き、態度、喜びにあふれており、美しいテクニック、熱意、興奮がソーシャル・ダンスの中でどのように表現されるかを体現していた。このパフォーマンスを体験することは、SCDの理想が実感できる機会となった。

セント・アンドルーズのサマースクールでのファミリーウィークは、RSCDSの活気に満ちた、世界中に広がるコミュニティを垣間見せてくれた。奨学金のおかげで、私たちには不可能だと思っていた機会と経験を得ることができた。クラス、ダンス会、パフォーマンスでいっぱいの1週間は、さまざまな分野で活躍する他のSCDメンバーたちと交流し、さまざまな国際的なSCD体験について聞く機会にも満ちていた。これらの会話は、RSCDSについて新しく刺激的な視点を与えてくれ、私は将来を心待ちにしている。このダンスの冒険は、次に私たちをどこへ連れて行ってくれるのか？

RSCDSと、この人生を変えるような刺激的な体験を実現してくれた各組織のすべてのメンバーに、心から感謝している。ハッピー・ダンシング！

ベルターニ家 - ドーン、ニック、トーマス、デビッド
(写真) 後列左から：ジェフ・アルトマン、マーガレット・バーネット、ニック・ベルターニ、ドーンの母親、エリザベス・シワード、ドーン・ベルターニ。前列左から：トマス・ベルターニ、デビッド・ベルターニ。

ニール・ギャロウェイの紹介 (p.14)

今年のRSCDS Book 54の出版に合わせてソサエティはファイフ生まれのニール・ギャロウェイを招いて、彼のバンドとともに録音を行った。会員サービス委員会委員長のジェレミー・ヒルがニールを訪ね、彼の経歴やスコティッシュ・カントリー・ダンシングのための演奏への意気込みについて尋ねた。

(写真) 左から：ガリー・サザランド（第2アコーディオン）、スーザン・ゴードン（フィドル）、ニール・ギャロウェイ（リード・アコーディオン）、イアン・アダムソン（ドラムス）、グレアム・ベリー（ピアノ）

18世紀終わりから19世紀初めにかけてのガウ一族のフィドルとチェロの継承を始めとして、20世紀のジミー・シャンドとその息子のジミー・ジュニアのアコーディオン一家、さらに最近では21世紀に俳ってデビッド・カニンガム・シニアとジュニアにいたるまで、家族の影響とバトンの受け渡しは、スコットランド音楽の歴史において大きな役割を果た

してきた。

ニール・ギャロウェイの父親は「家の中でちょっと演奏する」音楽家より少しましな程度だったかもしれないが、ニールは大伯父のヘクターをはじめとして家族の影響を十分に受けていた。ヘクターは1950年代60年代にはシリーズCeres村のパブやクラブに自分の3列アコーディオンをよく

持ち込んでおり、ニールが成長するときにはいまだ家族の中で演奏していた。あとで述べるように、彼の父親のいとこである、伝説的なボビー・クロウはさらに重要な影響を与えた。

ニールはクーパーの自宅において 4 歳ではじめてアコーディオンを手にし、1980 年代初頭からデビッド・カニンガム・シニアの手ほどきを受け、最終的にはデビッド・ジュニアが習ったのと同じアコーディオンを使っていた。デビッド・シニアが自分の仕事に専念するために教えることをやめたときに、ニールはイアン・パウリーのバンドで補助アコーディオンを務めていたスクーンのミッキー・エインズワースのところに通うようになった。

ミッキーを通して、ニールは多くの休日や夏季のライブイベントにかかわるようになった。そのようなイベントの一つがグレンシーであり、そこのキャバレーではダンシングのためではないがジャズ、クラシック、スコットランド音楽と幅広い種類の音楽が求められた。ニールの音楽能力の発達は、ジミー・シャンド・ジュニアやボビー・クロウとともに仕事をする事で得られたものだった。それは若い演奏家にとっては素晴らしい訓練の場であった。

在学中、ニールがデビッド・カニンガム・ジュニアならびに、同期生でピアノをうけつグレアム・ベリーと共演する機会を得たのは、青二才の 1 年生として数学の授業から引き抜かれて、彼らとともに学期末に演奏したときのことだった。グレアムがキーボード、デビッドのいとこのイアン・アダムソンがドラムスを演奏して、デビッドのバンドの調子が出てくると、補助アコーディオン奏者を探し求めるようになり、ニールに白羽の矢が当たったのは当然のことだったろう。

それは 1990 年代半ばで、気がついた時には、ニールはシェトランドで独奏する依頼まで含めてダンシング、ホテル、ショー、キャバレーのためにしばしば 1 週間に 6 日もあらゆる種類の夜の演奏にかかわり忙しくなっていた。ジュニアの時代からスコットランド・アコーディオン選手権に何年にもわたって参加してきたが、2001 年にシニアで優勝して、かれ個人の実力が認められた。

ボビー・クロウは悲しいことに 1990 年代に脳卒中のために演奏できなくなったが、ニールはボビーのゴラ・アコーディオン（ホーナー社アコーディオンのトップモデル）を演奏して伝統を引きついだ。このアコーディオンを新しい Book 54 の演奏に使う計画である。ニールはボビーの音楽の多くを引き継いだ。

この頃、ニールはローモンド・ケイリー・バンドにも属しており、バンドの他の人たちが専任で演奏することを望んだので、決断に迫られていた。資格のある精密エンジニアとして、ニールは演奏を重要ではあるが趣味的に考えていた。そのため、アバディーン石油産業での仕事があったときに、演奏から大きく身を引いた。デビッド・カニンガムも他の仕事のために演奏活動を減らしたので、バンドとのかかわりは

少なくなった。

2018 年に、ニールはシェトランド・アコーディオン&フィドル・フェスティバルに出場するというデビッドの誘いを受けたが、そのことが BBC ラジオ・シェトランドやその後の BBC グラスゴーのいくつかの番組に関わることに繋がった。これは彼が仕事の合間にソロ演奏を行うという二足のわらじであった。オータムヒティに住んでいたが、ときどき仕事でアバディーンに出かけた。できるときには、ケイリー、リール・クラブ、アコーディオンとフィドルクラブに、バンドを連れて出かけた。独奏者として彼はアバディーン、セント・アンドルーズやシーリーズのクラスでも演奏していた。

2023 年からは、ニールはバンドとの演奏と独奏の双方にさらに忙しくなった。2024 年のセント・アンドルーズでの RSCDS サマースクールでの演奏依頼を受けることを大いに喜んだ。彼はダンディのクラスでも定期的に楽しんで演奏している。

音楽的には、もちろん、彼は地元でボビー・クロウの演奏を聴いて育ったが、彼はリンジー・ロスやグレアム・ミッチェルの影響もあげている。他のアコーディオンのスタイルとしては、偉大なジャック・エンブローの影響を受けた。彼は、シェトランドのザ・ヘイムフェアラーズ・バンドのスタイルを気に入っている。そのバンドには、フィドルのウィリー・ハンター、アコーディオンのジム・ハルクロー、ピアノのロニー・クーパーがいる。彼は、メロディーとリズムに焦点をあてた、このシェトランドのスタイルで演奏を楽しんでいる。

ニールはいくつかの「技法的な」チューンにひかれるというが、また、異なるチューンの選択が異なるテンポすべてに多様性をもたらす、完全なミックスを楽しんでいる。彼はストラスペイの美しさを認識するには、少し時間がかかったと認めているが、今では偉大なスキナーのチューンに加えて、*The Gentleman* や *The Dean Brig of Edinburgh* などが自分のお気に入りだと述べている。

彼はいつも研究すること、編曲を組み立てること、そしてカントリー・ダンサーにとって「ちょうど」よいテンポを見つけることを楽しんでいる。ケイリー・バンドはスピードを強調するが、カントリー・ダンシングにはもっと微妙な要求がある。それは、よいダンシングを生み出す軽快なチューンを見つけることであり、フレージングとスペーシングの組み合わせから生まれるもので、音符と音符のつながり目と同じくらい、音符と音符の間の「間」が重要なのだ。

Book 54 の新しい録音のために、本稿執筆時には、ニールはバンド編成の最終調整をしていたが、グレアム・ベリーとイアン・アダムソンが加わっている。ボビー・クロウのアコーディオンとニールが没頭してきた伝統を組み合わせたこの陣容は、われわれみなを楽しみにしているアルバムに対する期待を高まらせている。

私の第2の家族 (p.15)

写真：ドロシーと愛犬

1955年9月、イングランドのチェシャー出身の25歳の私は、オーストラリアのシドニーにやってきた。世界の反対側にあるこの国のことはほとんど知らなかった。最初の考えでは、約3か月滞在するつもりであったが、この大陸がとてつもなく広いことに気づくと考えを改めた。大好きなイングランドに帰るまでに、おおかた2年の歳月が経った。

シドニー北のノースショアに食事付きの下宿、そして町にある小さな事務所で3か月間の事務の仕事を見つけた。でもどうやってこれら「オージー（オーストラリア人）」と知り合えたのか？ ミス・ミリガンはRSCDSを世界に広がった家族とよく称していた。もちろん、私はスコティッシュ・カンントリー・ダンサー、彼らは私の「第2の家族」だ。私は、いかに世界家族が広がっているかを自身で見つけることになった。

1950年代には、SCDは今日あるような高度に効率的な組織はもっていなかったもので、クラスにたどり着くためにしばらく時間がかかった。見知らぬ人のいる部屋に入っていくながらも、ほとんどただちに家にいるように感じるのは素晴らしい感覚だった。書類に記入したり、事務手続きは必要ない。「シューズを履いて、フロアに立ち、1-2-3 そして 2-2-3」。純然たる喜び。

30年の時が経ち、4人の家族を育て上げた私は、幸運にも海外旅行をすることができた。日本は一度ならず訪れた。多くの才能あるダンサーとともにダンスフロアに立つのは喜

ばしいことだ。私は日本語を話さないが、SCDのおかげで、言葉を知る必要はない。言葉がなくても、夕方の外出、素晴らしい友達関係、スコティッシュ・カンントリー・ダンシングの喜びを共有して楽しむことができる。

新型コロナウイルス感染症以前の時代は何年にもわたって、私は英国を1年おきに訪ねていた。そしてセント・アンドルーズでのサマースクールの1週間でしめくくっていたものだ。なんと感激させる訪問の終わり方だろう。

もっと若いときにSCDを始めたかったという人に、何十年にもわたり数え切れなく会ってきた。いつも自分は若いときに始めてとよかったと思う。RSCDSの会員は、友好的で、楽しい、世界に広がる家族、第2の家族を持つことができる。そして会員になるのに大金は要らない。私たちには4人の子どもがいるが、子どもたちは私たちについてきて、ダンスフロアにいる。

ミス・ミリガン、このようなことすべてを引き起こしてくれてありがとう。あなたの描いた未来像、あなたが定めたガイドライン、そしてこの素晴らしく社交的な娯楽を世界中に広めたこと。そこでは年齢は障害ではない。スコティッシュ・カンントリー・ダンシングに参加するには若すぎることも老いすぎていることも決してない。

ドロシー・ウィルソン、オーストラリア

写真：ダンディへの旅で。ドロシーは2列目の左端

世界各地からのニュース (p.16 - 20)

全ブランチおよび関連グループのニュース（200字以内）はキャロライン・ブロックバンクまで送付のこと。

グラスゴー・シニア・グループの25年

(写真) シニア・シルバー・グループ

1998年、ソサエティおよびグラスゴー・ブランチの設立75周年を記念して、グラスゴーでアフタヌーンティーが開催された。参加者は、引退したシニアのダンサーたちに加え、現在も活動を続けている数名であった。彼らは、交流を続けたいこと、そしてたとえクラスやダンスに参加できなくなってもスコットランド・カンントリー・ダンシングへの関心を持ち続けていることから、定期的集まりたいという希望を表明した。こうした声を受けて、ルース・ビーティ、ジョイス・ターキントン、故ドロシー・パターソンの3名により「シニア・グループ」が結成され、初回の集まりは1998年10月10日に開催された。その後、このグループは年4回の定例会へと発展し、現在ではグラスゴー・ブランチの全会員が参加可能である。会合では昼食に加え、音楽演奏や講演が行われることが多い。

シニア・グループは2024年10月10日に25周年を迎え、現在のリーダーであるモリー・マクラドンおよびモリー・ダニエルの両名による企画のもと、特別な昼食会（もちろんケーキも！）が開催された。音楽演奏はエリック・フィンリーによって行われた。この昼食会は、ルース・ビーティのブランチおよびソサエティへの長年の貢献を称え、「ブランチ賞」を贈呈するにふさわしい機会ともなった。

今後の会合、そして50周年を心待ちにしている。

イアン・ジョンソン

写真：シニア25周年記念ケーキをカットするルース・ビーティ

ハミルトン・オンタリオ・ブランチ

写真：ジャイナ・ミドルトンとジム・ペイト

ハミルトン・オンタリオ・ブランチは、2024年12月8日（日）に創立70周年を祝った。これは、ブランチ設立を公

式に認める書簡の日付にもっとも近い日程として企画されたものである。記念パーティはアフタヌーンティー付きでハミルトン美術館で開催され、90名以上の来賓が出席した。

当ブランチはカナダ初のブランチであることを誇りとしており、当日は創設当初の会員こそ不在であったが、1957年から在籍しているジャイナ・ミドルトンがパーティの実行委員長を務めた。現在および過去の会員の多くが、数時間をかけてこの日のために駆けつけ、再会の喜びに満ちた抱擁や挨拶が飛び交った。ティータイムの後には、「スコッチ・アンド・ソーダ」（レアード・ブラウンとウォレン・ビーズリー）による演奏のもと、短いダンス・プログラムを楽しんだ。ダンスはそれぞれ特定の年代に人気を博した作品から選ばれ、*Memory Lane*（ジーン・マッキノン作）および *My Friend Joe*（ロバート・キャンベル作）は、ブランチとの関わりが深い作品としてプログラムに加えられた。

RSCDS およびガリー・クールから祝辞が寄せられ、「楽しさ・健康・友情に満ちた次の70年」に向けた乾杯が行われた。ブランチ所属の8名のティーチャーたちは、教え子たちの前で勇敢にダンシングを披露した。*Miss Jean Matheson*（リーフレット、ウィリアム・クラーク作、1959年）は、1957年に若くして逝去したブランチの初代ティーチャー、ジーン・マシソンを讃えるものであり、これはカナダで初めて創作されたダンスとされている。

会場には記念品の展示テーブルが設けられ、競技ダンシング時代の銀製トロフィーや、過去のイベントを記念したTシャツなどが並べられた。別のテーブルには、ソサエティから功労賞を受けたブランチ会員の功績が紹介され、また別のテーブルでは過去70年間にわたる歴代31名のブランチ・チェアが讃えられた。イベントの最後には *The Duke of Perth* が踊られ、感動的な *Auld Lang Syne* が続いた。すべての来場者には、ブランチの歴史をまとめた記念冊子が贈られ、盛会のうちに幕を閉じた。

アン・ハリソンとヒュー・モリソン

写真： *Miss Jean Matheson* を踊るハミルトン・ブランチのティーチャー

写真：記念パーティのブランチ・メンバー

写真：アフタヌーンティーを楽しむハミルトン・ブランチのメンバー

写真：左からエレイン・ローレンス、キャサリンとスコット・リード、スー・ディルワース

リブル・バレー・ブランチ創立30周年

1994年に設立され、現在では50名を超える会員を擁している。活動範囲は広く、サウス・リブルから、ファイルド海岸、さらにランカシャー州東部のクリスローにまで及んでいる。多くのクラスやダンシングはプレストンおよびチョーリー周辺で開催されており、温かい歓迎と親しみやすいダンサーたちで知られている。

創立30周年を祝して、私たちは1年間すべてのダンス会チケットの価格を引き下げるほか、ビュッフェ付きのサマ

ーダンスや、ウィリアム&リンダ・ウィリアムソン夫妻を特別ゲストに迎えたハロウィンテーマのオータム・ダンス会など、さまざまな企画を実施した。特にウィリアムがRSCDS チェアとして参加する最後のイベントの一つとなったことは、大きな名誉であった。また、会員によって創作されたダンスを後世に残すため、小冊子『アニバーサリー・ブックレット』も制作した。これにより、素晴らしいダンスの数々が忘れ去られ、二度と踊られなくなることを防ぐことができた。詳細については、当ブランチのウェブサイト (www.rscdsribblevalley.org.uk) をご覧いただきたい。

サンドラ・ロイド

写真：リブル・バレー・ブランチ記念ケーキ

写真：仮装姿のリブル・バレー・ブランチのメンバーたち

セント・マイケルズ SCD クラブ

クックソنز・コートでバーンズ・ナイト・ダンス サマセット州ウェスト・キャメルにあるセント・マイケルズ SCD クラブの10人のダンサーたちが、バーンズ・ナイトの朝、ヨービルのクックソنز・コート・ケアホームに招かれた。観客の一人であるアン・ハモンドは、40年以上前にセント・マイケルズ・スコティッシュ・カントリー・ダンシング・クラブの創設メンバーだった。約40人の入居者とスタッフの前で4曲のダンスを披露する間、アンは経験豊かな目でダンサーたちを見守った。ダンスが終わると、観客は *Auld Lang Syne* を歌い、そして *Address to the Haggis*（ハギスに捧げる詩）を朗読した。ダンサーたちはその後、ハギスが振る舞われる間、入居者たちと歓談した。スタッフはスコットランドの国旗やロビー・バーンズの写真で飾りつけ、ダンサーたちを歓迎してくれた。このページの写真には、ダンスを終えたチームとアンの写真も含まれている。

ゲリー・ダフィールド

セント・マイケルズ・スコティッシュ・カントリー・ダンシング・クラブ

サマセット州の寒い2月のある午後、ヨービル近郊のウェスト・キャメルにあるデイビス・ホールで、セント・マイケルズ・スコティッシュ・カントリー・ダンシング・クラブ主催のデイスクールが開催され、60人のダンサーが集まった。30人のクラブ・メンバーに加え、ブリストル、ウェイマス、エクセターからも30人のダンサーが参加し、週末のためにメイドストーンから駆けつけたサイモン・ウェールズが指導する、とても勉強になる楽しいセッションを全員が楽しんだ。音楽は、ワイト島から「北の大きな島」まで旅をしてきたイアン・ミュアとジュディス・ミュアが担当した。これはセント・マイケルズが主催した最初のデイスクールで、マギー・ウェストリー会長が発案した。参加者からの反応は非常に好意的で、誰もがイベントを楽しんだようだ。セッションが終了した後、ほとんどのダンサーは、クラブのメンバー数名の協力を得てグレアムとリズ・ベッキンセールが用意したおい

しい食事に舌鼓を打った。この日は、イアン・ミューとジュディス・ミューが再び音楽を提供し、アンドルー・ホワイトの MC でダンサーたちが踊るイブニング・ダンスで幕を閉じた。クラブは毎週木曜日の夕方（7月と8月を除く）に開催され、新しいダンサーやビジターを歓迎している。

www.stmichaelsscdclub.org

ゲリー・ダフィールド

シアトル・ブランチ

2024 年 11 月 23 日、シアトル・ブランチは、部屋から出ることなくスコットランドのカントリー・ダンスを踊りながら世界中を旅して、RSCDS 100 周年からの 1 周年を祝った。エリナー・バンデグリフトとエルシー・スピニングは、11 の世界各地のダンスからなる楽しいプログラムを考案した。参加者は好きな国のコスチュームに身を包んで参加した。ダンスだけでなく、それぞれのダンスが世界のどの地域からきたのかを聞いたり、仮装した人たちがその衣装について語り合うのも楽しいものだった。

ハリー・カミス

ウォルサム・スコティッシュ・カントリー・ダンス・グループ

（写真）ダンサーとバンドの見守る中、終身名誉会員のディレクとジョイスによるケーキ・カット

1964 年に設立されたウォルサム・スコティッシュ・カントリー・ダンス・グループは、11 月のアニュアル・ダンス会でダイヤモンド・アニバーサリーを祝った。ダンスは村のホールでクレグラヒー・バンドの演奏に合わせて行われた。イアンとジュディス、グレアムとジョン、そしてフィドルのアリという 5 人編成のバンドで、素晴らしい時を過ごした！

プログラムはグループが結成された 1964 年を念頭に、当時人気のあったダンスを中心に作られた。最近のダンサーにとっては初めてのダンスも多く、クラスでは John McAlpin, Roaring Jelly, The Duchess Tree, Mrs Milne of Kinneff などを練習した。この日のためにクリス・ロナルドが創案したダンス、The Waltham Diamond（ウォルサム・ダイヤモンド）は、4 カ

ップルのスクエア・セットで踊られる 32 小節のストラスペイで、音楽はジム・リンジィが *Diamonds are a Girl's Best Friend*（ダイヤモンドは女の最良の友、マリリン・モンローが映画「紳士は金髪がお好き」で歌った歌）という曲をアレンジしたもので、他のショーからの音楽と共に演奏した。

この日のために用意されたチケット（もちろん 60 枚！）はイベント前にすべて完売。ケーキは新しくデザインされたロゴでデコレーションされ、この夜の記念品として、メンバーの 1 人によって刺繍が施された新しいロゴで飾られたタータンチェックのシュバッグがダンサー全員に贈られた。

ジョン・エッキン

ストーン・スコティッシュ・ダンシング・グループ 70 周年記念ボール

2024 年 10 月、ストーン・スコティッシュ・ダンシング・グループは、ニューカッスル・アンダー・ライムにあるブラッドウェル・ロッジ・コミュニティ・センターで、ボールとビュッフェ式晩餐会を開き、創立 70 周年を祝った。私たちは少人数のグループなので、このイベントに 48 人が参加してくれたことを嬉しく思っている。来場者の多くは、会場（いつものホールより広い）、フレンドリーな雰囲気、豪華なビュッフェ、そしてクリス、ジュリー、ニック・デューハーストという素晴らしいミュージシャンについて触れ、この夜をいかに楽しんだかを語ってくれた。21 のダンスからなるプログラムには、私たちのグループが設立された 1954 年に作られた J.B. Milne や、1984 年の私たちの 30 周年記念ボールの折に、私たちの誰よりも長い会員であって、RSCDS のティーチャーでもあったヘザー・デビーのために特別に書かれた Heather's Strathspey（スリーカップルのストラスペイ）が含まれていた。彼女が今でもまだダンシングを続けていて、今回のボールにも参加してくれたことを嬉しく思う。チャリティーのための抽選会では 160 ポンドが集まり、私たちのグループにとって過去最高額となった。そして最後には腕を組み、伝統的な Auld Lang Syne を歌って、大成功の楽しい夕べの幕を閉じた。

ダイリス・ライリー、チェアパーソン

書 評

チェシャー・ブランチ 40 周年記念 Book と CD

この新しく出版された本は、チェシャー・ブランチ 40 周年を祝って、ブランチ創立時メンバーと現メンバーが考案した 16 ダンスを紹介している。CD はロバート・ホワイトヘッドと デーンロウ・ダンス・バンドが演奏している。

この本には、5 つの Reel, 4 つの Jig, 7 つの Strathspey がダイヤグラムつきで紹介されている。様々なレベルのダンサーたちに適しているダンスが紹介され、また幅広くフォーメーションが取り入れられているが、多くはよく使われている形で、特殊な形で使われているものもある。set and rotate, circulating allemande, reverse Shiehallion reel, tandem

(p. 21)

reel, Celtic reel などである。このようなフォーメーションを指導する時にも、教師の皆さんにはお勧めしたい。セットの数・形も様々なものが含まれ、色々なダンスを紹介するにも良い。ロングワイズ・セット、スクエア・セット、トライアングル・セット、スリー・カップル・セット、フォー・カップル・セットなどのダンスである。実に様々で、皆が楽しく踊れダンス会のプログラムにも歓迎されると思う。

音楽は既に CD に収録されている。とても快活で、聴いていくつろげる音楽になっている。ロバート・ホワイトヘッド、アンガス・フィチュット、ジミー・シャンド、ドナルド・リドリー、アダム・レニー、ジム・ジョンストン、ロニー・

クーパー、イアン・ホームズたちの過去と現在のチューンを素晴らしい組み合わせで演奏している。多くの踊り心地良いチューンが、オリジナルチューンと良く調和している。何度も足で、タップ踏んで楽しんだ。ストラスペイのチューンは、特に目新しく明るくすべてのダンサーたちを魅了する音楽で過去の作曲家とダンス・リーダーの影響を彷彿とさせてい

る。

本の仕上がりも美しい、ダンス解説も読みやすい。ダンス・ティーチャーにとって、大きな資産になるであろう。そして本とCDはコレクションの強化としてもお勧めしたい。

ジム・ストット

フランスでダイヤグラムの勉強 ソフィ・マルシャン、メオードル・リール（フランス）チェア（p. 22）

すべては大人のダンサーのカトリーヌが、夜のダンス会やSCDのウィークエンドに行ったとき、踊っていて迷子にならないようもっと手助けがほしいと言ってきたことから始まった。

私はフランス語で教えることには慣れていたが、SCD用語も使っている。フランス語に翻訳できない用語もあるし、SCD用語を知っていれば、遠くへ、あるいは海外に出かけた時、ダンサーが、今どうするのか、をより簡単に理解しやすくなるからだ。なので、SETを使うと、フランス語では7を意味する、“SEPT”と聞こえるが、アレマンドやパデバスクは私たちには明らかにわかりやすい。フランス人にはChaine à 4（シェーナ・クアトル、4人でチェーン）と言う方が簡単なのだが...Rights & Leftsを使っている。

これ以上に何が出来るのだろうか？ もっとフォーメーションを沢山教えること？ 夜のダンス・プログラムの中のフォーメーションを教えるという選択肢もあるが、いつも皆が同じイベントに行くとは限らないので、ますます彼らを満足させるのが難しくなってきたのだ。

今年私は全員にダイヤグラムについての必須のレッスンをすることにした。それぞれのクラスに、まずは1ダンスをダイヤグラムで教えた。最初のクラスで、メインのフォーメーションを指導し、ダンスの説明をして、一般的な注意点を伝え、そしてダイヤグラムを示し、彼らに復習するように伝えた。翌週、前回教えたダンスのダイヤグラム、またはほとんど同じような記号の新しいダンスのダイヤグラムを渡し、ダンスの説明をするように求めた。皆は小さなグループに分かれ、5分程各々の考えを話し合い、皆で一緒にダンスについて意見交換をさせた。最初は簡単ではなかったが、大人たちは皆、このゲームに夢中になった。もちろん面白い話も沢山聞かえてきたけれど...ソフィ、ストップ！メガネをかけなきゃ！私も！

またある時は、Dという記号に注目した、これどういう意味かしら？ あのダンスは何なの？ 英語のDという文字はどうやって踊ればいいの？

その年の年末には、細かいところまで質問が増えた。誰が

踊るのがどうしてわかるのか？ なぜ彼らの番号の横にXがついているのか？ 彼らは夢中になっていき、そしてそれぞれのクラスのダイヤグラムのダンスの所定の動きを楽しみようになっていた。ダイヤグラムのダンスはいつも最初に出会ったダンスというわけではなかった。使われている記号やダンスの難易度にもよるものだろう。この方法はとても上手くいっていたので、この1月からは、子どものクラスも同じ指導法で教えることに決めていた。子どもたちは大人たちより早く、このすべての記号を覚え対応できるようになった。

図：Bit of Bothのダイヤグラム

私はBit of Bothを指導し、クラスに問いかけた。ダンスの名前は？何カップルで踊るの？スクエアになるの、それともロングワイズ・セットで踊るの？

9歳のニーナが手を挙げていた。さっと見て、非常に真剣に答えてくれた。「最初3カップルは4小節Set, Crossをして...、どうすれば良いのか私はわからないけれど、最後はプロムナードになる。」もちろん私は可笑しくて笑いが止まらなかった...。実はcross（“croix”クロワ：フランス語で十字架の意味）という英語は、フランス人にとって、crossing横切るという考えはない、フランス語で横切るはtraverserトラベルシで、crossといってもまったく同じ意味には聞こえないのである。

今年の次の段階は、最初の週のダンスのダイヤグラムを自分で書き、それを検討する。第2週目は、ダイヤグラムを見て、ダンサーたちに説明をしてもらおうと思っている。3週目は踊ってみて、そして踊ってみたように（または踊るべきだったように）ダイヤグラムを仕上げることだ。

大人のダンサー、ジルベールが彼自身のダイヤグラムを書くようになった。今年は私たちは数曲新しいダンスを考案した。キース・ローズが彼のダンス・ダイヤグラムを送ってくれ、その書き方が良かったのかどうか確認でき、大きな喜びになった。

SCDは足腰強化の効果ばかりではない！頭を使うことが最も大きな効果だ！クラスが終わった時に、皆に笑顔が溢れていること、それが大事なのであるとは思っている。

私の意見 (p. 23)

スコティッシュ・カントリー・ダンシングの世界共通語

スコティッシュ・カントリー・ダンシングを踊る喜びの一つに、世界中で踊ることが出来ること、専門用語が世界共通であるから、どこかの国に行っても自分のなじみの曲を踊ることができることがある。また参加したい人なら誰でも迎えてくれるという、開かれた共同体であるという利点も持っている。SCD への変更があるとすれば、出来るだけ多くのダンサーの要求にかなうという目的でなされるべきである。

米国のいくつかの地域では、ダンサーに性を区別しない具体的な用語で SCD を教え、情報を伝えている現在の傾向が、私や他の人の関心事になっているが、私が見聞きしていることに関して意見を述べたいと思う。性区別されることを好まない人に私は反対していないし、開放的で誰をも歓迎するダンス共同体を、私は全面的に支援している。私が懸念するのは、ダンス・グループが SCD を教えるのに異なったやり方のため分裂して共通面を狭め、新しい用語に馴染まない既存のダンサーを遠ざけているのではないかということである。また 100 年の伝統の持続を、誰にもうましく方法でまずやってみようとせず、いきなり変えてしまうのを私は見たくないのだ。

私は、性を区別しない具体語に二つの異なった使い方があるのを知っているが(私が知らない他の用語もあるかもしれないが)、その二つとも問題があると確信している。一つは私の地域のいくつかのグループで使われているものだが、今までの男性サイドをレフト・サイドと呼び(そしてダンサーをレフトサイドダンサーと呼ぶ)、女性サイドをライト・サイド(ダンサーをライトサイドダンサー)と呼んでいることだ。これは、踊る時セットのトップの方に向いているショルダーを示す。一見良さそうに思えるが、これには二つの大きな問題があると思う: 1) SCD には既にライトとレフトを使う多くのフィギュアがある。そのためダンサーとフィギュアにライトとレフトを使うのは非常に混乱させることになる。2) これは既にライト/レフトの区別を知っているダンサーにとっては難しいことになる。

もう一つは、自分が誰であるかを決めるのに他の解釈を加えることで、つまるところライトかレフトの名称を拡大することである。セットのトップの方を指しているショルダーを示すのに使う文字として男性に lark ヒバリ、女性に robin ツ

グミ/コマドリという言葉を使っている。これは一層よくない。今ライトかレフトを分かなければならないのにそれをまたヒバリとツグミに置き換えねばならないのだから。さらにつけ加えると、これは英語を話さない国では適用されない言葉である。

スコティッシュ・カントリー・ダンシングは世界的な伝統的なものであるから、性区別のないどんな用語でもすべての国で機能すべきだ。英語を話さない国では「男性」や「女性」という言葉は位置を示し、特定の性を想定するものではない。これが米国で受け入れられればと願うが、踊る時、もはや誰をも男性とか女性と呼ばない行動が出てきているのだ。

おそらくソサエティは広く使用され得る、性区別のないダンスのための規範を定めることを考えるべきだろう。(その際どれだけ多くのダンサーにこれが適用されるか、現在のやり方にどれだけ多くの性区別をしないダンサーが反対しているのか、また、あるいは、変更によってどれだけのダンサーが引きつけられ、それと比較してどれだけのダンサーが辞めていくのかを知ることが役に立つだろう)。RSCDS は男性と女性の代わりに性区別のない用語を推奨するか採用するかを決めてはどうだろうかとは私は思っている。作成した方々に感謝しているが、私たちには既にほとんどすべてのダンスにダイアグラムがある。今までの男性サイドの人をサークル(丸)、女性サイドの人をスクエア(角)と呼んだらどうだろうか? それだとダイアグラムと一致するし、性の指定もなく、SCD に重大な混乱も起こさない。

もしソサエティが新しい用語を選ぶとしたら、「男性」「女性」を使用の既存するすべてのブックがどうなるか充分考えなければならない。既存の資料(ダンスブック、マニュアルなど)を持っているティーチャーや読み手にとっては、性区別のない用語に変える必要があり、レッスンの準備や指導が更に難しいものになる。公式のブックには男性、女性を使用した書き言葉やサークル、スクエアを使用したダイアグラムが含まれるのだから、書き直したり再発行したりする必要があるであろう。クラスはどちらでも好む方を使用すればいいが、もう一方の語法も説明する必要もあるだろう。

スー・マッキネル シカゴ・ブランチ

イアン・ミュアのマラソン演奏 (p. 24)

1月27日月曜日、エアシャー州プレストウィック出身のイアン・ミュアはグリーンノックの壮麗な市庁舎を舞台に開催された、インバークライド音楽祭のスコティッシュ・カントリー・ダンス部門の演奏を務めた。小学校6年生と7年生の課題ダンスは、”The White Cockade” または”Edinburgh Toy Shop” だった。驚くべきことに、出場14チームすべてが”The White Cockade” “を選んだのであ

る。各チームのためにイアンは8回演奏しなければならなかった。全部で14チーム、合計で112回演奏するということである。彼は各チームの踊りの最初と最後に”The White Cockade” を演奏(合計で28回)し、さらに42の代替曲を演奏した。全体ではほぼ1時間半を要した。ダンスのレベルは非常に高く、96点で優勝したのはグリーンノックの聖マリア・カトリック小学校であった。この部門には、

112 人の子どもたちが参加し、バルコニーは保護者で埋め尽くされ、会場の雰囲気は熱気に満ちていた。私が優勝者を発表した時、歓声は耳をつんざく程であった！

イアンは朝 10 時から夜 7 時半まですべての競技で演奏し続けた。グリーンロック、ポート・グラスゴウ、グーロック地区のほぼ半数の学校にあたる合計 10 の小学校が参加した。ほとんどのクラスがコンテストに参加したが、競技に参加したことのない子どもたちや、スコティッシュ・カンントリー・ダンシングの指導経験が少ない先生のための競わない部門もあった。私にとって特に印象的だったのは、特別支援学級の子どもたちのチームで、彼らは完璧に踊り、

フォーメーションごとに 1 から 8 まで声に出して数えていた！

インバークライド音楽祭は 2 週間にわたり、三つの異なる会場を使用し、合計 11 人の審査員がいる。スコティッシュ・カンントリー・ダンシングに加えて、合唱とソロ歌唱、スコッツフィドル、クラッシュャハ（小型ハープ）、アコーディオン、ソロとデュエットの楽器演奏、オペラ、ギルバート&サリバン喜歌劇、ドラム、語り、朗読、バーンズの歌、スクールオーケストラ、チャンター（バグパイプの練習用リード楽器）とバグパイプの競技があり、最終日には盛大なコンサートで幕を閉じるのである。

ジミー・ヒル：ダンシング審査員

サザン・フリング/フリンジ 2024 (p. 25)

ユニバーシティ大学 ユニバーシティ・カレッジ、メルボルン&地区ブランチ主催

58 名のダンサー、2 名のティーチャー、4 名のミュージシャンが、11 月 22 日午後にユニバーシティ・カレッジに集合し、サザン・フリング/フリンジ 2024 のウィークエンドが開催された。これはメルボルン&地区ブランチにとって新たな試みで、隔年で開催される若いダンサーのためのスプリング・フリング・ウィークエンドを組み込み、年次ブランチ・ティーチング・ウィークエンドに替わるものである。オーストラリアとニュージーランド各地からダンサーを迎えた。フリング・クラスには 16 名の若いダンサーが、フリンジ・クラスには 32 名が参加した。

ウィークエンドは RSCDS の「ダンス・アラウンド・ザ・ワールド」と重なったため、そのプログラムのすべてのダンスがウィークエンドクラスと土曜日の夜のソーシャル・ダンスに織り込まれた。

シドニーから来たクレア・ハークとアンドリーナ・ブレナンが私たちの 2 名の教師である。クレアはフリング・クラスを、アンドリーナはフリンジ・クラスを教えた。ウィークエンドにこのような熱心でフレンドリーなティーチャーが参加してくれたことを大変幸運に思っている。

マシュー・ロバートソン、ダンカン・スミス、デビッド・サウス、ピップ・ヒーリーが、クラスとソーシャル・ダンスのために素晴らしい音楽を演奏してくれた。金曜日の夜には、マシューとダンカンが、イングランド、アイルランド、コントラ・ダンスを含む「世界一周のケイリー」（ダンス・アラウンド・ザ・ワールドのテーマに沿って）に私たちを導いてくれた。

ハイライト・ウィークエンド全体がハイライトだが、特に以下の点が印象的であった。

● 土曜日の夜のソーシャル・ダンスで、フリング・クラスがデモンストレーションとして、“The Wild Geese”を披露してくれた。

● 年次ブランチ・ティーチング・ウィークエンドとソーシャル・ダンスでマシューがデビッドの息子リーアムのために書いたジグ”Jig For Liam - Time Traveller “が初披露された。最近健康上の困難を抱えているリーアムにウィークエンドの参加者全員から健康回復への特別なメッセージが送られた。

● シドニー出身のフリング・ダンサーの 1 人、ハナ・デュケがバンドに加わり、ソーシャル・ダンスでいくつかのダンスを演奏した。

宿泊、食事、クラス、ソーシャル・ダンスはカレッジで行われ、サザン・フリングとサザン・フリンジの参加者が一体となり、協調的で共同体的な雰囲気を作り出した。旧友との再会があり、新たな友情が育まれた。

若いダンサー 4 名に全額および一部奨学金を提供してくれた RSCDS のジーン・ミリガン基金、2 名のダンサーに奨学金を提供してくれたシドニー・ブランチ、そしてウィークエンドに参加したすべての学生に助成金を提供できるよう、メルボルン・ブランチに寄付をしてくれたすべての方々に感謝したい。

クリスティン・フリーマン（サザン・フリング/フリンジ 2024 委員長）：メルボルン&地区ブランチ

以下の手紙で述べられたいかなる意見も、書いた人個人の意見であって RSCDS または役員会の見解を示すものではない

用語の不正確さ

私は長年踊り続け、多くの経験豊かな MC からダンスの説明を聞いてきた。これはすべての MC に対する用語についてのお願いである。

Lead down the middle and **back up** あるいは単に Lead down the middle and **up**? **back up** は確か後退ステップを使うことを意味する。それから、**opposite side** に対して **wrong** (間違った) **side** を使うことがある。確か、SCD において間違ったサイドというものはなく、正しいサイドがあるだけでは? **set** は 2 小節で、ダンサーは **set to the right**, そして **set to the left** と言われると 4 小節と思い少々困惑する。それは **pas de basque right** と **pas de basque left** というのがより正しいだろう。これは通常 2 番目の **pas de basque** で動くことが必要な場合に適用する (ストラスペイ・セッティング・ステップでも同じ)。

SCD はダンサーを混乱させることがあるので、これを軽減するために明快で一貫し、曖昧さのないコールが重要だ。私の願いは届くだろうか?

スティーブン・ウェッブ、ロンドン・ブランチ

エチケット・ガイドについて (その 1)

フィオナ・ブリバントの編集長への手紙 (マガジン 2024 年 10 月号) とは異なるが、RSCDS がより安全のための試みの一部として **Guide to Etiquette** (エチケット・ガイド 東京ブランチレター No. 124 p.3) を発表したことは嬉しく思い安心した。21 世紀の期待を反映したエチケット・ガイドを練り上げ推進するソサエティの勇気を喜ぶ。

新しいガイドラインの中での「ノーと言ってもオーケー」ということは喜ばしい。ダンスへの誘いを断ることに よって断られた人が他の人をダンスに誘う間は外へ出るのを強いられるということは、不快なしきたりだと思う。踊りたい人と踊ると決める権利を行使することで罰を受けたように感じた。

他の女性にダンスを申し込まれた時、申し込みに対しノーということで 2 人は別々になり、望まない相手と踊りたくない 2 人の男性はそれぞれ他の女性と踊ることができる。

不適当な慣習はダンスフロアの内外で起こりうるので、この規則はいつでもダンスをやめる個人の権利を完全に認めている。もし一緒に踊るダンサーの言葉や行動で不快を感じても、誰もがダンスを続けることを強制されることはない。

上記の例は、時代遅れの慣習がいかに現代のあらゆる社会活動としてのダンスの楽しみを損なうかを示している。

初心者として私は、仲間やティーチャーから押されたり引っぱられたり大声を出されたりしながらも、ダンシング

を続けてきた。ミスをしたときに望んでいない言葉や身体的な指導を受けることは不快で威嚇に近い。ほとんどのダンサーのように、私はミスをした時は (ふつうは) 気が付いており、仲間のダンサーに非難されたり直される必要はない。ミスを正すのはティーチャーの役割だという新しいガイドラインに私は賛成する。もし私の間違いでセットがこわれたとしても、それをリカバーするのはダンサーの能力の一部だと思う。経験で学ぶ私は、サポートし合える状況の中で間違えることは、学ぶための素晴らしい方法だと確信する。

個人の権利を認めサポートすることは将来の SCD にとって不可欠である。不愉快な経験をしたダンサーはだいたいクラブに戻ってこない。SCD ダンサーが減少している時に、新しいエチケット・ガイドが世界中で採用されればこの現象を引き止める助けになるだろう。

自分はみなより経験があると思い、自分はみなを指導する権利があると信じている人たちのもとで、威圧されるような社交活動に参加したいと思う人は誰もいない。ジョー・ファーガソン、キャンベラ&ディストリクト・ブランチ (オーストリア)

エチケット・ガイドについて (その 2)

2024 年 10 月号のフィオナ・ブリバントの編集長への手紙に対し、エチケット・ガイドラインは多くのダンサーがすでに行っていることを妨げるものではない。つまり、相手の気分を損ねたくないで、気は進まなくてもその相手とのダンスを受け入れるという選択肢は、依然として残っている。

このガイドラインは、しかしながら、不快なあるいは望まない経験を避けたいダンサーにとって、貴重なよりどころとなる。誰にとってもダンスフロアが快適であるためにこのガイドラインを賢く使おう。

アンドルー・ノーラン、エジンバラ・ブランチ

エチケット・ガイドについて (その 3)

マガジン 39 号のフィオナ・ブリバントの手紙について、ある相手を断りそれから別の相手を受け入れる正当な状況がある。

- 最初の誘いが酔っていて不快
 - あらかじめビギナーは見ているように言われた複雑なダンスに、ビギナーが申し込んだ
 - ダンスを休みたいとき、セットを作るためにもう 1 カップル必要で、断ると他の数人が踊れなくなる
- エリザベス・ベネット、クロイドン/ロンドン・ブランチ

次期チェアの任期

2024年のAGMで、代議員は、チェアーエレクト（次期チェア）とチェアの任期を2年ずつから、チェアーエレクト1年・チェア3年に変更する提案に賛成を投じた。理由はチェアの2年は短すぎるということである。これは重要な変更で、十分な議論が必要と考える。チェアの3年任期は理にかなっているかもしれないが、しかし、それは新チェアが、アイデアやその他のサポートを共有したい次期チェアが不在という厳しい状況になる。

この変更の提案の背景は役員会のアイデアだが、にもかかわらず、旧チェア（ウィリアム・ウィリアムソン）は退任あいさつの中で新チェア（ガリー・クール）の就任に感謝し、「ガリーと私はまさにチームでした」彼は続けて、

「われわれ2人はソサエティを前進させるには2人のトップが必要なことを理解し、ソサエティが良くなるように2人で努めてきた」と述べた。去っていくチェアのあいさつの皮肉は出席者の何人かには当惑であった。3年任期の始め2年は次期チェアと緊密に働くことを否定する提案がAGMで通過したばかりだった。なんとも奇妙だ！それにしてもこの変更がうまくいくことを望んでいる。次期チェアとしてのたった1年の経験の後に、新たな次期チェアのサポートなしにチェアの役割を担うことはチャレンジになるだろうと思う。

オータム・ギャザリングはまたソサエティの将来を考え話し合う機会でもある。会員は20年前より著しく減り、スコットランドとUK、世界各地でも減少は同様である。この傾向が続けば、未来は暗いだろう。大切な未来のためにソサエティはスコットランドの基盤強化に焦点を当てるべきである。

さて、上記は最優先事項でウィークエンドの会議の議題になるべきだったが、残念ながら議論の焦点にならなかった。しかしながら、われわれは他の人たちとともにアイデアを分け合うための議論を進めなければならない。より賢明なオープン・フォーラムのメインの時間割の中に復活させ前進させよう。会員の視点は大切である。ソサエティは恐れることなく意見の発表を奨励しよう。「21世紀のRSCDSはどうあるべきか」という問いにアイデアを分け合い答えを出すことだけが、発展し衰退を逆転することを可能にする。
ピーター・ナップマン、グラスゴー・ブランチ

いくつかの考え

1. 音楽と踊りはスコットランドの文化の一部であるが、ソサエティのダンシングはスコットランドで踊られているものとは少し違うように思われる。視野を広げて周りを見まわし、例えばリール／ギリー・ボール、ケルティック・コネクションズ、リンリスゴー・スコッチ・ホップ等にもっと参加すべきではないか？スコットランドの学校では踊られていないままだし、多分学校の先生がダンスを見て感銘を受けないからだろう。青少年サービス委員会は十分な対策を有しているのだろうか？
2. アイデアにあふれ、教えるより運営に適したチェアパーソンが選出され、幸先のよいスタートを切ることには私は期待する。私は新しい3年間の任期（昔に戻った）に満足しておらず、誰が選挙に立候補するのか、どのように進めていくべきかを注視すべきだと思う。ソサエティは困難で世界的な組織であることを私は理解している。
3. 近年のAGM議案の順序は正しくないが、気付かれていないようだ。憲章委員会はあるが、それはブランチのために向いている。だが、ソサエティについてはどうだろうか？たいへん不思議だ。
4. 100周年という機会、特にグラスゴーでのオータム・ギャザリングを生かしきれなかったソサエティに失望している。オータム・ギャザリングには新しいアイデア、ディレクター、ダンシングの選択が必要と私は考える。また、AGMのダンス・プログラムを海外のブランチが考えることは、スコットランドのダンシングを衰退させると信じる。
5. 役員会は些細なことより本質を考え、関連する委員会に方向を与えてほしい。例えば、ティーチングの目的と目標は何か、そして多くの新しいダンスや奇抜な外国製ダンスの導入を認めるのか、いぶかしく思う。われわれの現状を見よう！何千もの新しいダンスにもかかわらず会員は減っている。
6. ダンシングは楽しくフレンドリーなものと思われるが、たとえばクリスマス・ダンスのプログラムを見ると、それはどちらかというとシリアスであり楽しくなく、いっしょに踊ろうと思う友人や家族を連れてきても何にもならないように思われる。

運営の観点からみれば、われわれは何か新しいアイデアを試す時である。もしそれが間違っていたとしても！

ジョン・カーズウェル、ウェスト・ロジアン

追悼文 (150 字以内) はランチまたはクラブのセクレタリから送って頂きたい。

イーディス・キャンベル

イーディスは 60 年以上にわたって、多くの国内および地方のイベント、すべてのレベルでの指導、デモンストレーション・チームのトレーニング、主要な組織委員会のために尽くすなど、ニュージーランドでの SCD に貢献してきた。夫のブルースと共に、イーディスは 46 年以上教えていたシータウン・クラブを設立している。彼女は 2002 年以来、ウェリントン地域委員会にも継続的に貢献していた。2023 年には、ウェリントン地区から感謝状を贈られている。イーディスは、特に彼女の努力の成果であるスコットランド・インタレスト・グループやすべてのスコットランドの行事の普及に力を注いでいた。多くのイベントでのハーブ演奏、60 周年祭における装飾文字の提供、彼女のコラム欄の沢山の記事など。1993 年からは、ハーバー・シティ・ハブニング誌の中で彼女のコラム、スパートル・ウィールダーがあった。彼女は、スコットランドについては百科事典のような知識を持ち、心の広い人だった。

ロッド・ダウニー、ウェリントン RSCDS 会長

ローズマリー・クープ

ローズマリーはスコットランド系タスマニア人で英連邦奨学金制度でバンクーバーに来了。ヒュー・サーストンは彼女の最初のティーチャーだった。ダンス史における彼の専門的な知識は、彼女に大きな影響を与えたと語っていた。ローズマリーとロバート・クープは登山、キャンプ、ハイキングなども楽しんだ。彼女はカピラノ大学で英語を教え、ライティング・センター (書写センター) の創立委員長だった。1990 年、彼女は RSCDS ティーチャー資格を取得した。2022 年 12 月までダンスを教え、そしてバーナビー・エンターテイメント・チームを率いた。バンクーバー・ランチのデモンストレーション・チームそしてバーバラ・キャンベル・インベラリ・ダンサーズのメンバーであった。歴史的研究に情熱を傾け、Eightsome Reel の歴史に関する記事を書いた。彼女は、バンクーバーにおける SCD 史についての素晴らしい本やダンス史に関する多くの記事を執筆出版した。彼女はニュース・レター White Cockade (バンクーバー・ランチ) の創刊編集者であり、Scottish Country Dancer 誌の編集者であり、マニュアルの編集にも携わっていた。

キャスリン・コニングス、バンクーバー・ランチ

セーラ・ギャレット、ハートフォードシャー

セーラは学生時代に兄弟から SCD に誘われた。ケンブリッジ大学のクラスに連れて行かれ、そこで将来の夫コリンにも出会った。17 歳の時、ダンシングのために彼女はアコーディオンを演奏していた、そのあとすぐに、バンド・ピアニストとしても活動を始めた。彼らは一緒にセント・アンドル

ーズのサマースクールでミス・ミリガンのクラスで踊っていた。セーラは、英国中またパインウッズなど北米などでもコリンのクラスで演奏していた。彼女は、バレエやタップのクラス演奏や、地方の歌手のための演奏はもとより、セント・アンドルーズの音楽スタッフの一員だったこともあった。RSCDS の終身会員であり、バーカムステッド・ストラスペイ & リール・クラブのダンサーとして、またミュージシャンとしても長年活動していた。彼女のチューン、The Hyperactive Reel (Graded 2) は彼女の娘ジルと共同したのだが、RSCDS によって出版されている。彼女は毎日、ピアノで即興演奏しなくてはならなかった。

セーラの娘 マリオン・ピュースラー

エイビス・ハリソン、リーズ・ブランチ

エイビスの訃報をリーズ・ブランチの皆が悲しみの中で受け止めた。彼女は 20 代で SCD を始め、1968 年ミリガンが試験官の時、RSCDS 公認ティーチャーの資格を取った。エイビスはリーズ市セント・コロンバで自分のクラスを立ち上げ、80 歳になるまで 50 年間指導した。彼女は、リーズでは、ブランチ・クラス教師として、またカントリーおよびステップ・ダンシングのティーチャーとして国際的にも有名だった。エイビスは、リーズを訪れる多くの海外訪問者との企画にも尽力した。RSCDS サマースクールでも長年にわたり指導し、デモンストレーションや指導のためにも世界中を旅していた。エイビスは何度もオーストラリアを訪れ、SCD 愛好者の多くの友人がいた。2006 年にはソサエティから功労賞が贈られた。

キャスリン・スレーター、リーズ・ブランチ

ドリス・マカッチャン

ドリスはビル・リトルの指導の下で、幼いころから踊っていた。ある時、ミリガンが、「キャッスル・ダグラスから来た私の友達はどこにいるの」とクラスで言った。彼女は 13 歳のドリスに特別なフォーメーションをどういう風に踊るのか見せて欲しかったのだ。19 歳になったドリスは、ミリガン率いる世界的なデモチーム・メンバーに選ばれていた。彼女は満場一致で選ばれた唯一のダンサーであることに誇りを持っていた。彼女はチームに所属している間、踊っている時は (自分は) 一部にすぎない、と思っていた。その後も彼女は、踊るのが本当に好きだから踊っているのよ、そして事実、亡くなる 1 週間前まで踊っていた。ドリスが、ミルンと結婚した時、地方紙では有名な地元ダンサーであると紹介していた。1978 年、彼女はランカシャー州・ペンワサムのクラスを引き受けた。1986 年からはサウスポート・ブランチの上級クラスの指導もしていた。

スティーブン・ブラウン、リブル・バレエ RSCDS

アンソニー（トニー）・ペイン

トニーは自宅で元旦に食道がんで亡くなった。彼のダンシング・キャリアは地元エルサムで始まり、その後ケンブリッジで踊っていた。同校古典学部卒業後は、SCD のフル・サートیفিকেート（教師資格）を取り、RSCDS エクセター・ブランチを共同設立し、ティバートンのブランデル学校で教鞭をとっていた。ダンシングを通して、レクサム出身の製薬化学者ディリスと出会った。トニーはラフバラ・グラマー・スクールに移り、1974 年彼らは結婚した。ノッティンガム・ブランチに加わり主任ティーチャーになり、18 世紀の純粋な踊りから MaNab の Lamont of Inveryne など、専門的知識をもってユーモア溢れる指導をした。ピアノとオルガンの音楽的才能、学校における海軍将校養成隊、改革派教会のキリスト教信仰者としての人柄には、愛情と称賛をもって人々の心に記憶されている。ノッティンガム・ブランチのウェブサイトには追悼文が掲載されている。

デビッド・ペイジ

ネビル・ラムジ

ネビルは11月、99歳で亡くなった。3年前まで踊っていた。エアーと北エアシャー、両ブランチの会員だった。フェスティバルや海外でのデモチームの一員だった。彼は真の紳士で、エアシャーのダンス・イベントなどでも惜しまれているが、2023年エアシャー・ブランチでの100周年祭記念ケーキ・カットをしてくれたことは喜ばしいことである。彼は、エアシャーの3ブランチが主催するダンス会やイベントのサポートもしていた。SCD は彼の人生において重要な位置を占めていた。彼は学校でのダンスや、彼の教会で行われる年次バーンズ・サパーなどで踊るチームの準備などにも貢献していた。

ウィルマ・ブラウン、エアー・ブランチ

ジョン・レントン

ジョンはインバレリーの人里離れた農家に住んでいた。優れたアコーディオン奏者で、彼名義の数枚の RSCDS レコーディングのバンドリーダーだった。彼は正確なテンポで演奏し、他の多くのミュージシャンと同様に、彼が演奏するときのダンサーの喜びの顔を見るのが大好きだった。彼の素晴らしい演奏に加えて、彼はスコティッシュ・イディオム（スコットランドらしさ）の多くの美しい曲の作曲家でもあり、関節炎のため長くは演奏できないことに気づいたとき、彼は仲間のミュージシャンや友人に約1500セットの楽譜を渡した。彼の頭の中にはいつも曲があって、それを思い出すと、ただ歌ったり、口ずさんだりした。それは素晴らしいスキルだった。ジョンは特にストラスペイの演奏を楽しんだ、彼はそれをとてもうまく解釈していた。彼は非常に才能のあるスコットランド人で、謙虚で、親切で、誠実で、彼と知り合えたことをいつも光栄に思っている。

スティーブン・ウェップ、ロンドン・ブランチ

キャサリン・ロイ

キャサリンがいつ踊り始めたかは誰も覚えていないが、すぐに彼女は熟練し、非常に熱心で、RSCDS クラックマナンシャー・ブランチとダラー・クラスの両方のチェアパーソンであり、マーティス SCDC のトレジャラでもあった。キャサリンはダンスのために旅行するのが大好きで、ヘレンズバラ、オーバン、ダンス、パース、トゥルーン、ダンファームリン、そして彼女の故郷であるオルバとブリッジ・オブ・アラン、そしてロックダウンが終わり外で会うことができるようになるとすぐにアロアの友人の庭で会った。彼女は外国へのダンス旅行ほど愛するものではなく、ブダペストに2回、キプロス、そして最後にボローニャに行った。彼女はインターナショナル・ブランチのメンバーだった。どこで踊っても、すぐに新しい友達ができ、彼女のきゃしゃな体型は、彼女の大きな影響力と能力とは対照的だった。彼女は素晴らしい知恵を持っていて、他の人がダンシングを楽しむのを助けるために一生懸命働いた。

ローナ・アンダーソン、クラックマナンシャー・ブランチ

アン・テイラー

アンはもともとエジンバラ出身だった。私が初めて彼女に会ったのは1960年代、彼女がストーナウェイから引っ越してきて、フォレスのスコティッシュ・カントリー・ダンシングのタベに参加したときだった。彼女はハイランド・ダンシングに集中し、カントリー・ダンシングをもっと学びたいと思っていた。アンはエルギンの私のクラスと RSCDS に参加し、結婚して双子の女の子が生まれるまで、サマースクールに数回参加した。女の子たちが大きくなると、アンはセント・アンドルーズに戻り、ティーチャー資格を取得するために努力し、その後、地元でクラスを教え、バンフシャー・ブランチのセクレタリを務めた。彼女はダンシング審査員になり、その後試験官に任命された。彼女はすべてのユニットのレベルで受験生を指導することが最も幸せだった。アンはサマースクールとウィンタースクールの両方のディレクターであり、病気で辞任を余儀なくされるまで本部の教育訓練委員会の委員長だった。彼女は大きな勇気と尊厳を持って病気と闘い、最近では2024年のオータム・ギャザリングなど、ダンスの行事に観客として参加していた。アンは、2001年にソサエティが採用したリール Broadford Bay (RSCDS Leaflet) で記憶されることだろう。そのダンス名は、アンが夫のボブと一緒に、多くの幸せなウォーキング・ホリデーを過ごしたスカイ島の湾に影響された。アンは2022年にソサエティ功労賞を贈られた。

ジェニファー・ウイルソン MBE、バンフシャー・ブランチ

バーバラ・テイラー、トロント

バーバラ(ピラウエイ)テイラーはアルバータで育ち、1980年代後半に若い家族と一緒にオンタリオに引っ越し、そこでスコティッシュ・カンントリー・ダンシングを紹介された。彼女は長年、ジーン・ハミルトンのエリン・ミルズのクラスやトロント地区のデモンストレーションで踊った。

バーバラは1999年にティーチャー資格を取得し、忍耐強く才能あるティーチャーであり、優雅なダンサーでもあった。彼女は長年地元のクラスを教え、トロント・ブランチのクラスと日帰りワークショップで教えていた。彼女はまた、トロント・ティーチャーズ・パネルを含むいくつかの委員会にも参加した。

バーバラと夫のマイケルは国際的に踊った。バーバラは、TAC と RSCDS セント・アンドルーズのサマースクールに何回か参加し、デモンストレーション・チームの一員に選ばれ、RSCDS Book 50 のダンスをビデオに収められた。バーバラは、家族、友人、そして世界中のダンサーのコミュニティにとっても惜しまれている。

キース&ディアドリ・マキュッシュ・パーク および ヘレン・ビビック

マーガレット・ザドウォーニ

深い悲しみと共に、RSCDS の終身会員のマーガレット・ザドウォーニの逝去をお知らせする。マーガレットはカナダ全土の多くの場所に住み、スコティッシュ・カンントリー・ダンス・コミュニティに永続的な影響を与えた。マーガレットは1967年にティーチャー資格を取得し、スコティッシュ・カンントリーとレディス・ステップ・ダンシングを教え続け、同様に大人と子どもの両方のための数多くのワークショップを主導した。彼女はまた 数え切れないほどの 意欲的なダンス・ティーチャーを育成し、彼女の専門知識とダンスへの情熱を共有した。才能があり創造的なダンス作者のマーガレットは、彼女が考案したオリジナル・ダンスで世界中に広く尊敬されていた。彼女のダンスブック、*Aye Afloat* と *The Smitty Piper Collection* は、ダンス・コミュニティへの彼女の顕著な貢献の証である。マーガレットは、幸運にも彼女に指導され、彼女が惜しみなく分かち合ったダンスの喜びを体験できたすべての人に深く惜しまれるだろう。

バーブ・キャンベル、ウィニペグ・ブランチ

スコティッシュ・カンントリー・ダンシングの楽しみ (p. 30)

ロージー・ディクソンの魅力的で熱心なSCDの勧めは、本誌の読者にはすでによく知られている。この記事はU3Aの広報誌のために書かれたもので、新メンバーを募集しているブランチやクラブでも利用できるだろう。U3A (University of the Third Age) とは、人生の第三の「年代」にある、主にリタイア後の地域の人々に対して、学びや刺激を提供することを目的とした国際的な運動である。(編集長)

数年前に、私と夫のグレアムがスコティッシュ・カンントリー・ダンシングに参加することになると、誰かが言ったとしたら、*I'll eat my hat.* (ありえない!) と返しただろう。私は子どもの頃、バレエと数種の楽器を習わされたけれど、それはもう過去のことで、再燃することはない、そう思っていた。グレアムについては、率直に言って、私が出会った中で最も音楽的センスがなく、不器用な人だった。しかし、新年にウォーキング・グループでグレン・コーに旅行した後、すべてが変ることになった。伝統に従って、私たちが滞在していた場所では新年を活気に満ちて迎えた。そこで初めて私たちはスコティッシュ・カンントリー・ダンシング、より正確に言えば、人生初のケイリーを体験した。そして予想外にも、私たちはそれをとても気に入った!

ドーセットに戻った私たちは、近くにSCDのクラブやクラスがないかと探した。すると南ドーセットではほぼ毎日どこかでダンスができることがわかった!

私たちはドーチェスターU3Aに入会し、そこからすべてが始まった。最初は16人ほどのクラスだった。クラスは2週間に1回で、これは次のクラスまでの間に習ったことをすべて忘れてしまうほどの間隔だった。グループの熱意により、レッスンはすぐに週1回になり、これは大きな助けになっ

た! SCDはかなり体力を使うけれども、ここでぜひお伝えしておきたいことがある。たとえ動きに制限のある人でも、単に踊りの動作を歩いて行うだけでも、ダンスは同じように楽しめるし、実際に受け入れられるということ。私たちの先生であるアイリーンは、聖人のような忍耐力を持っていて、胸いっぱいのお褒めをもらうに値する。彼女はクラスが終わると家に帰って、暗い部屋で泣いているに違いない!と思う。

SCDについて学ぶべきことはたくさんある。皆さんを不安にさせるつもりはないけれども、これは事実の一部である。基本的なステップがあり、最初はそれを理解するのが不可能に思える。フォーメーションは数多くあり、3年近くたった今でも、私たちを驚かせ続けている。リズムには、活気に満ちてエネルギッシュなジグとリールがある。またゆっくりと優雅なストラスペイがあるが、しかし同じように厳しくミスをごまかす余地がない。ダンスはパートナーや他のダンサーとチームを組んで踊るものだが、このダンスのいいところは、誰かと一緒に来る必要がないことだ。誰もが皆と踊るので、とても社交的な場となり、経験豊富なダンサーが初心者者を優しくリードしてくれる。そして、ダンスがうまいときの感動はたまらない!

とてもストレスがいっぱいで大変なことのよう聞こえ

るが、ではなぜそんなことをするのか？ SCD には、たくさんの喜びとメリットがある。まず、第一に、楽しいし、笑いが絶えず、その笑いはまるで新鮮な空気を吸ったようなのだ。気分を高め、ストレスを軽減し、信じられないほど社交的な体験だ。身体的な効果もあるので、ワークアウトのように感じるが、ジムに行くよりずっと楽しい。HITT（高強度インターバル・トレーニング）クラスのような厳しいものではないが、SCD は骨の健康に同様のプラスの効果をもたらすことが示されている。SCD には、ホップやジャンプなど、体重を支え、適度な負荷をかけるエクササイズが含まれている。このダンスフォームでは、骨密度の維持に重要な筋力強化エクササイズも行うため、骨が丈夫になり、骨粗しょう症のリスクを減らすのに役立つ。

この種の身体的なダンスは、心血管の健康と脳機能を高める。精神的な刺激や人とのつながりは、どちらも脳の健康全般に重要である。ステップを覚えてこなすのに必要な記憶力と調整力は、認知能力の向上にも役立つ。練習は完璧を生むというけれど、これには時間がかかる。ダンシングを始めたばかりのころは、セッションの終わりには自分の名前さえおぼつかないほどで、ステップを覚えるどころではなかった。だから、粘り強さが鍵なのだ。

私たちはもう 3 年近くダンスをしており、U3A のセッションに参加するだけでなく、ウェイマス（Weymouth Scottish Country Dancers）やチャーミンスターでもレッスンを受けている。最初は緊張したけれども、ボールにも何度か参加した。それはすばらしい経験だ。女性はスマートな服や華やかな服に身を包み、男性はキルトやボニー・プリンス・チャーリー型のジャケットを着用することが多い。皆が長い列を作って踊る光景は格別だ。すばらしい腕前のバンドによる生演奏が加わり、スプリング（弾性）フロアの上で踊るとさらに壮観だ。スプリング・フロアというのは、私がこれまで出会ったことのないものだったが、初めて体験したときは、まるでトランポリンの上にいるようだった！ 小さな

ホップやジャンプがポゴスティック（ホッピング）で跳ねているように変わった。まさにファンタスティックで不思議な体験だ。

週末や休日にも踊る機会があり、経験豊富なゲストティーチャーが日中にレッスンを行ってくれる。そして夜には、日中に習った動きを活かすダンス会が開催される。このようなイベントは、国内外で頻繁に行われていて、以前の旅行でおなじみの顔ぶれに会うことも多い。

特に私たちがすばらしいと感じた旅行は、毎年 7 月と 8 月にスコットランドで開催される RSCDS のサマースクールだ。歴史ある町セント・アンドルーズの大学で行われる 4 週間のダンス漬けのイベントである。世界中からあらゆる年齢のダンサーが集まり、一流のスコティッシュ・カンントリー・ダンスのティーチャーたちが指導し、すばらしいミュージシャンたちが伴奏する。私たちは 1 週間だけの参加だが（各週の内容は多少異なる）、これは自分たちのスキルアップの絶好の機会だと感じている。楽しく、フレンドリーで、充実している！

もし、あまり費用がかからず（必要なのは適切なダンスシューズだけ）、楽しくて、やりがいがあって、心の健康にもいい、新しい活動をお探しなら、スコティッシュ・カンントリー・ダンシングをご検討あれ。最初に言ったように、ダンスは私たちの得意なことではなかったし、私たち二人とも、今ほどたくさん踊るようになるとは夢にも思っていなかった。私たちは、生涯ダンスを続けてきた多くの人たちに会った。彼らを見ているのはほんとうに楽しいし、私たち素人にとって大きな刺激になる。私たちは決してそのような人たちのようにはなれない——年を取りすぎている！ 私たちは夢を見てベストを尽くすことはできるが、何よりも大切なのはこの旅路を楽しむことだ。

ロージー・ディクソン、南ドーセット

《写真：ロージー&グレアム・ディクソン》

ダンサーズ・ダイアリー (p.31)

デイ・スクール・ダイアリーはイアン・ブロックバンクが編集している。次号 41 号は 2025 年 10 月～2026 年 4 月を載せる予定。情報を、ian@scottishdance.net に送っていただきたい。

(2025 年 4 月～12 月の予定は原文参照)

Scottish Country Dancer 日本語版
第40号

2025年6月発行

RSCDS 東京ランチ

セクレタリ 西森典子

285-0816 佐倉市藤治台 9-6

Tel 043-485-2528

e-mail: bon_accord417@amail.plala.or.jp